

小田原市立病院建設工事設計図

第1期工事(病棟)

建築工事

構造



株式会社 伊藤喜三郎建築研究所

KISABURO ITOW ARCHITECTS & ENGINEERS INC.

特記事項

1.	コンクリート	普通コンクリート	・設計基準強度 $F_0=240 \text{ kg/cm}^2$ (病 棟 ---- B1F~3F 床造) $F_0=210 \text{ kg/cm}^2$ (その他) ※ 病 棟 , 中央診療棟 地下部分(底盤より1F床造)は、水密コンクリート(水セメント比 50%以下, スケッチ 15~18cm; 浸透性混和材使用)とする。 ※ 打増しコンクリートの打増しは 20mm とす。
2.	鉄 筋		・SD35 — D19 ~ D29 [JIS-G-3112] ---- JIS 規格品 ・SD30 — D16 ~ D10 [JIS-G-3112] ---- JIS 規格品 ※ D19 以上は圧接継手とする。 (柱, 梁 主筋) ※ 柱 HOOK は スパイラルフックとする。
3.	鉄 骨: 鋼材(病 棟)		・SM50A — 柱, 梁 フランジプレート (JIS-G-3106) ・SS41 — 柱, 梁 ウェブプレート (JIS-G-3101) ※ 柱, 梁 パネルプレート (R- t_3) は SM50A とす。 [中央診療棟] ・SM41A — 柱, 梁 端部 フランジプレート (JIS-G-3106) ・SS41 — 柱, 梁 ウェブプレート, 梁 中央フランジプレート (JIS-G-3101) ※ 柱, 梁 パネルプレート (R-t_3) は SM41A とす。 [外 来 診 療 棟] 車 庫 庇 ・SS 41 — 柱, 梁 ・SSC41 — 二次部材 ・SR 24 — フレーム材
	高力ボルト		・F10T 建設省告示 第1795 号に適合の特許品セボ高力ボルト。
	鉄骨製作		・鉄骨製作に先立ち念書(施工計画書)を作成し、監督官の承認を受けて着工する。
	鉄骨加工		
	溶接試験	[病 棟 中央診療棟]	・実合ヒ溶接部の 30% を超音波探傷試験し溶接部の耐力を確認する。
		[外 来 診 療 棟 車 庫 庇]	・建設省普通仕様書「昭和 56 年版 7.5.9 (a)-(5)」により溶接部の耐力を確認する。
4.	杭	[病 棟 病棟斜路 等] 等	・杭種 リバーシブルケーソン工法: 杭先端 GL-34.0m ----- (載荷試験実施せず) AC 杭 (A 種) 400φ, 600φ GL-34.0m (ヴィーガー・セメントミルク工法) = AG 杭 (A 種) に代えて載荷試験(普通仕様書「昭和 53 年版 7.5.11~7.5.13」)により耐力を確認する。 病 棟 --- 最大荷重 570t (1ヶ所) 中央診療棟 --- 最大荷重 390t (4ヶ所) 載荷試験 杭施工 ・杭施工に先立ち念書(施工計画書)を作成し、監督官の承認を受けて着工する。
5.	壁 符号		・特記なき限り 外壁 W15 内壁 W12 但し B1F 内壁は全て W15 とす。
6.	普通仕様書		・建設大臣官房官庁営繕部「建築工事普通仕様書」昭和 56 年版
7.	床仕上げ		・ 
8.	止水板		・地下外周部で土に接する部分の打越部分には止水板を打込む (止水板 W=200 塩ビ製)

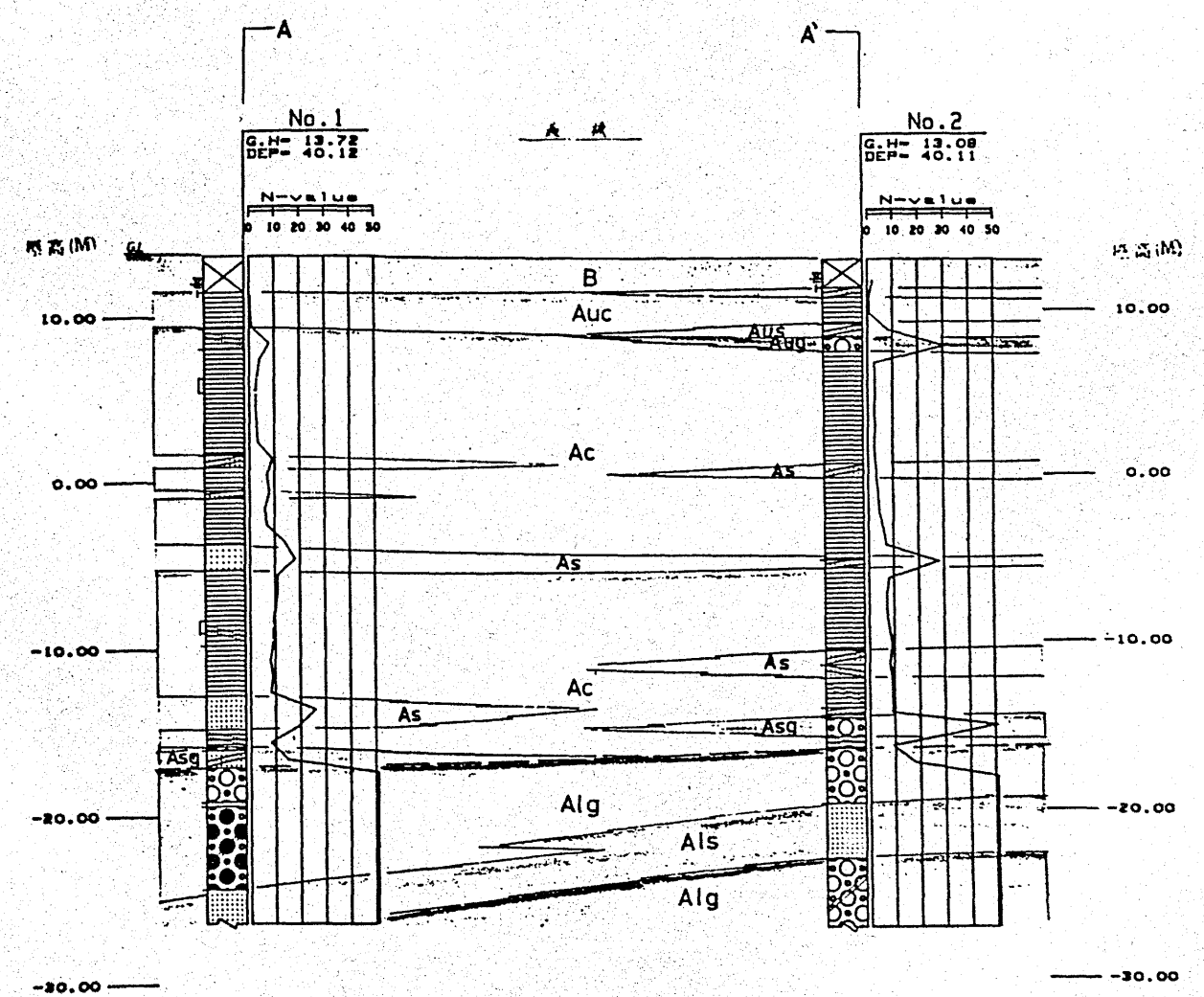
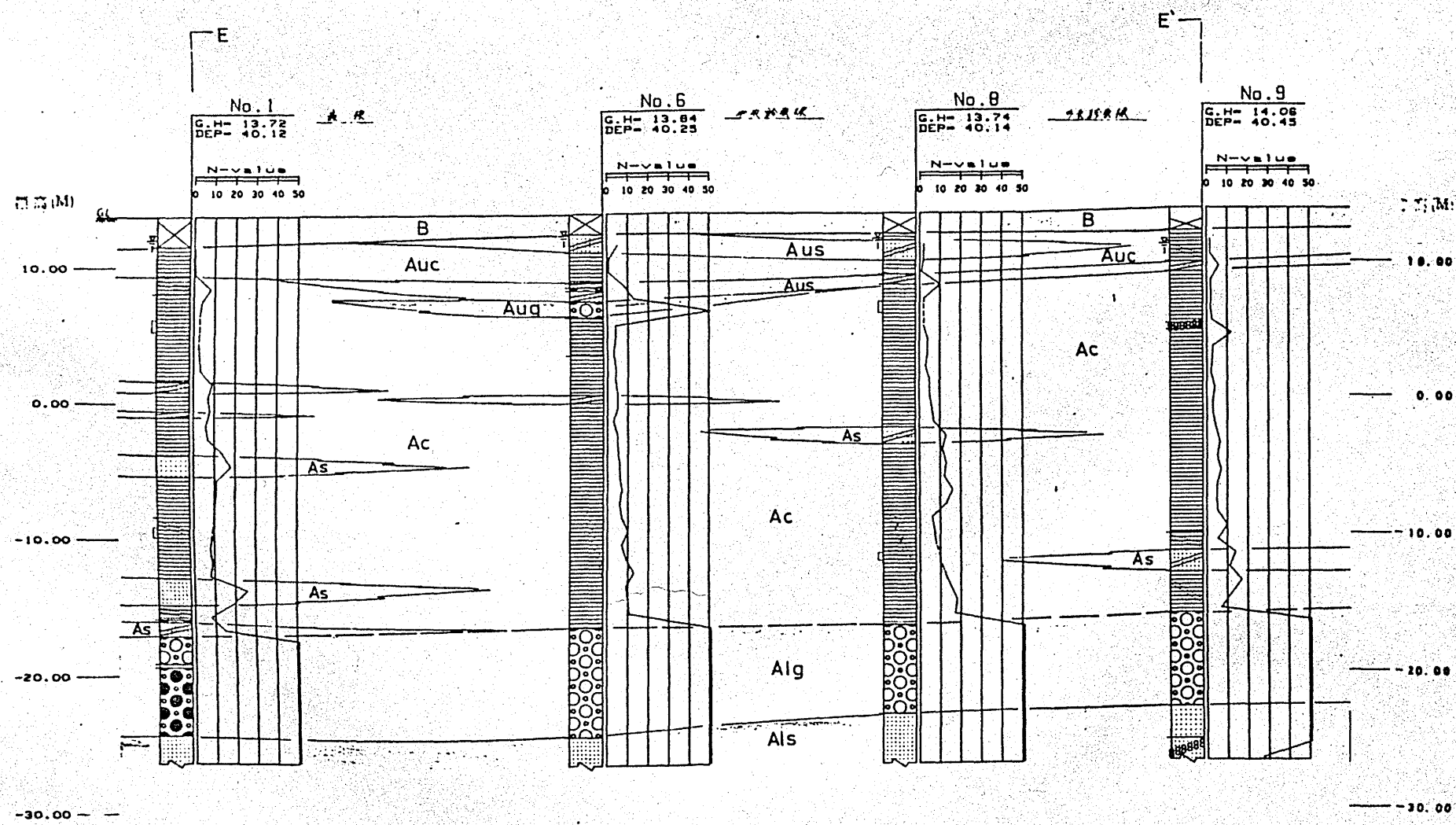
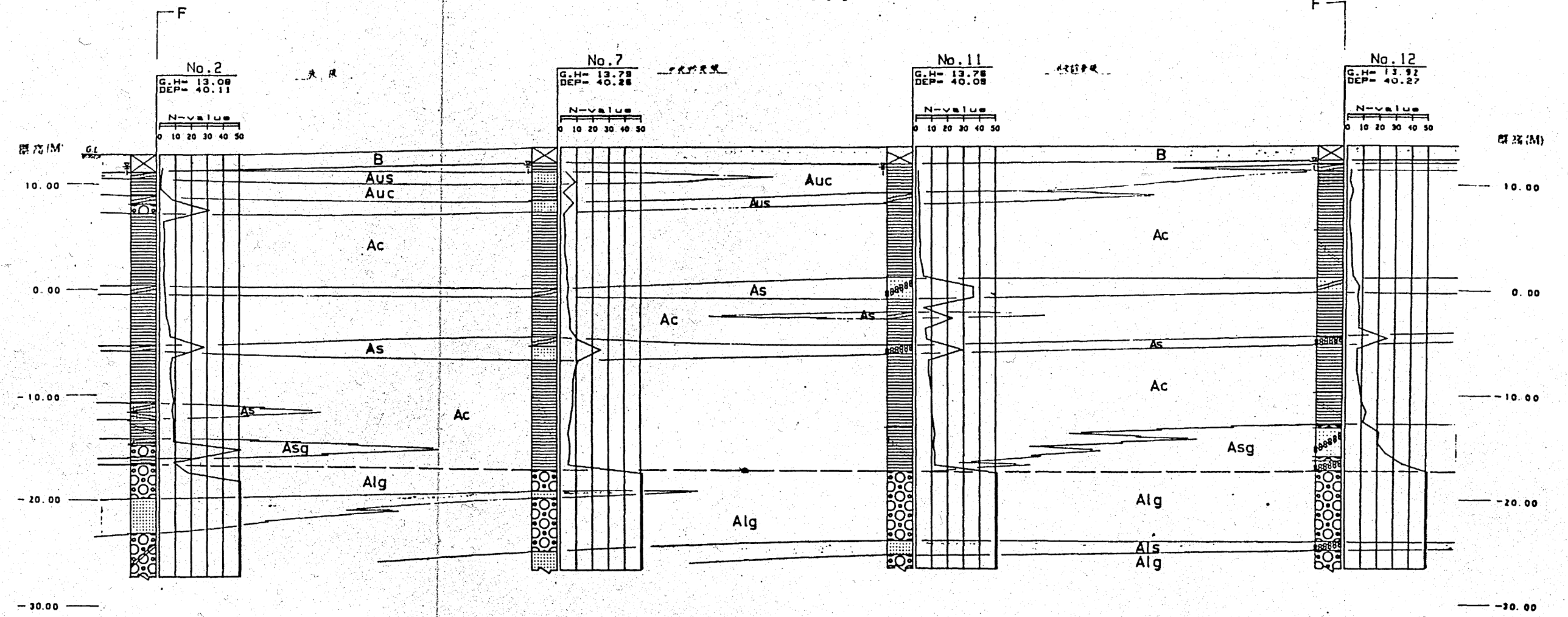
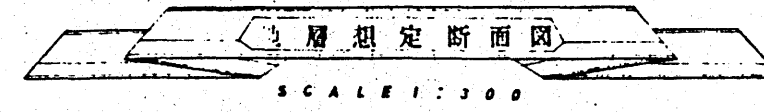
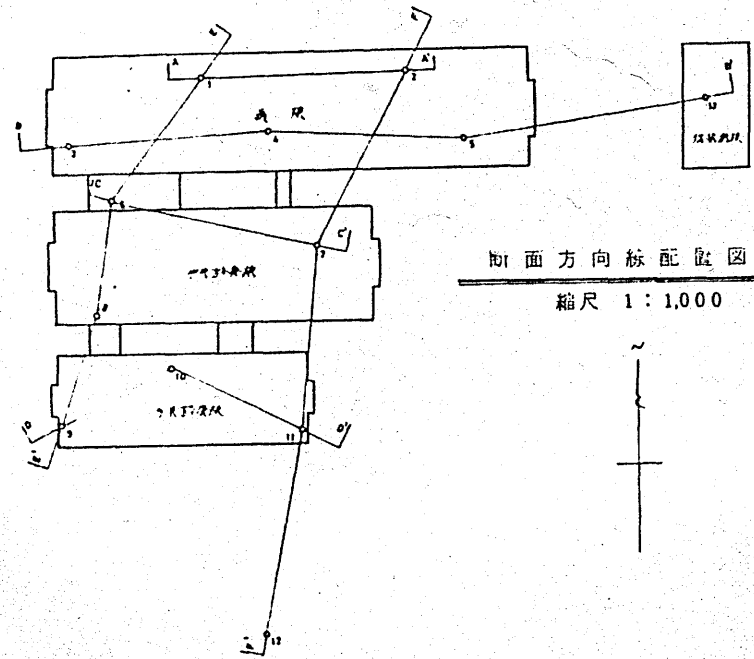
地層想定断面図

柱状图记号凡例

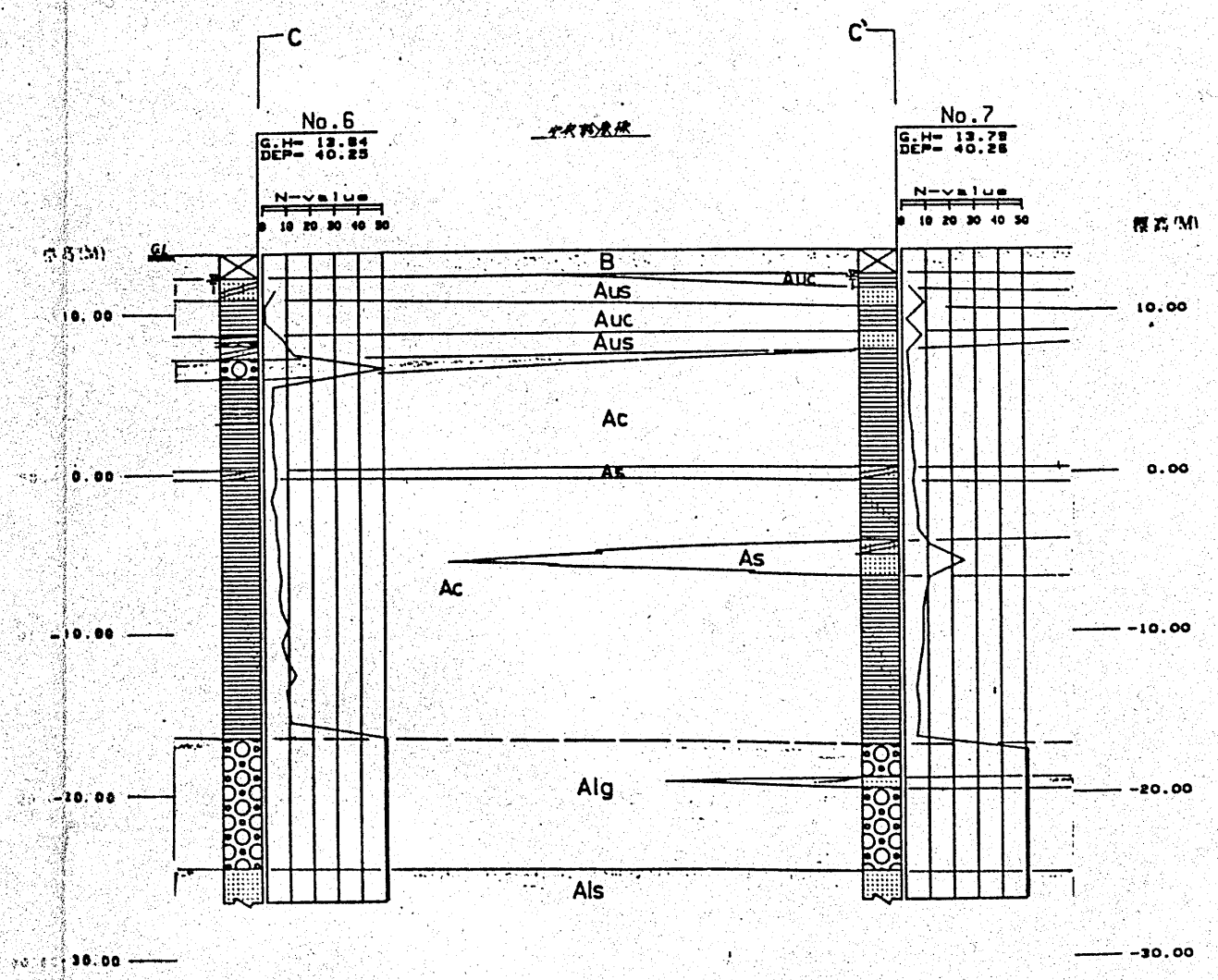
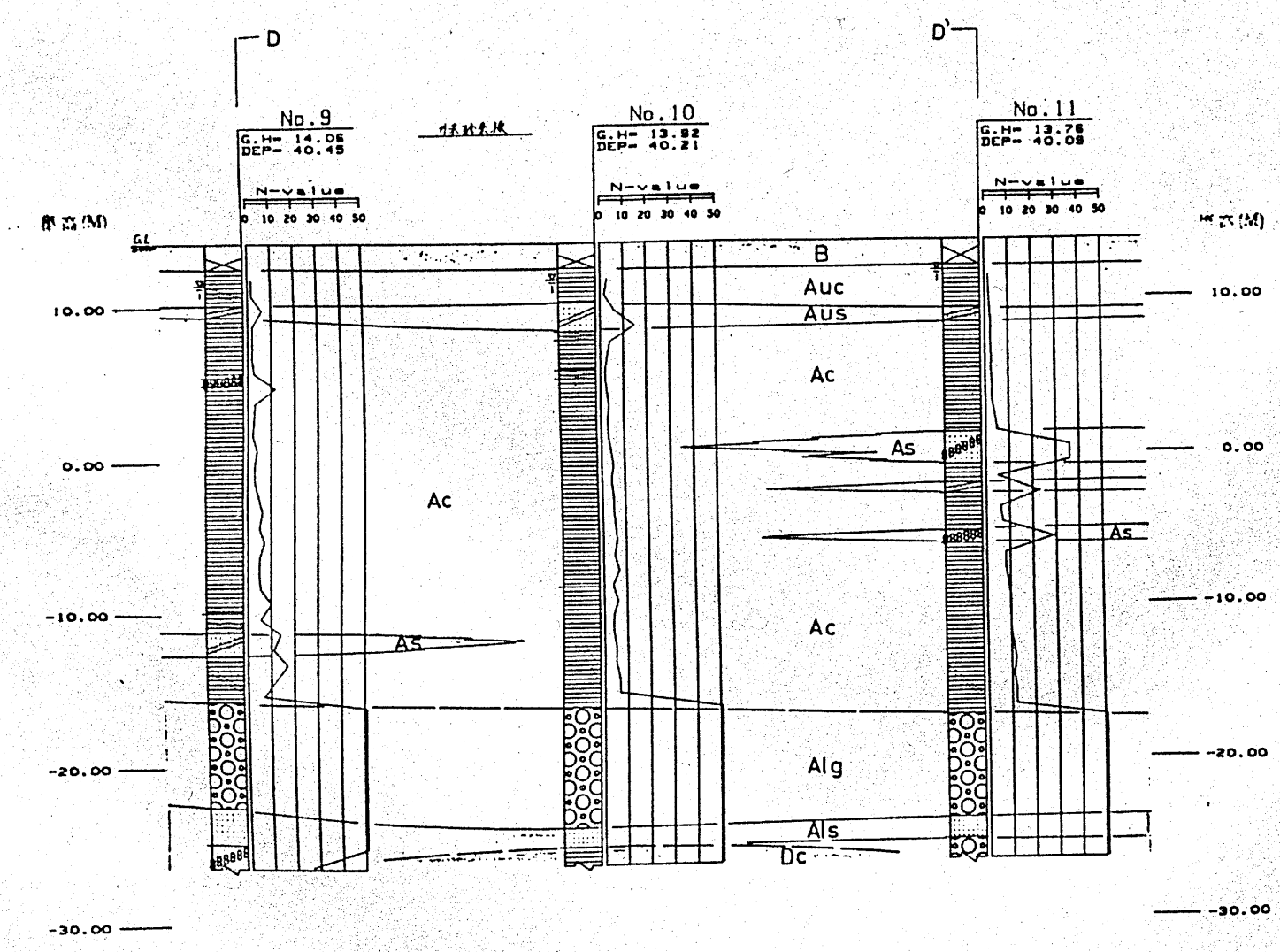
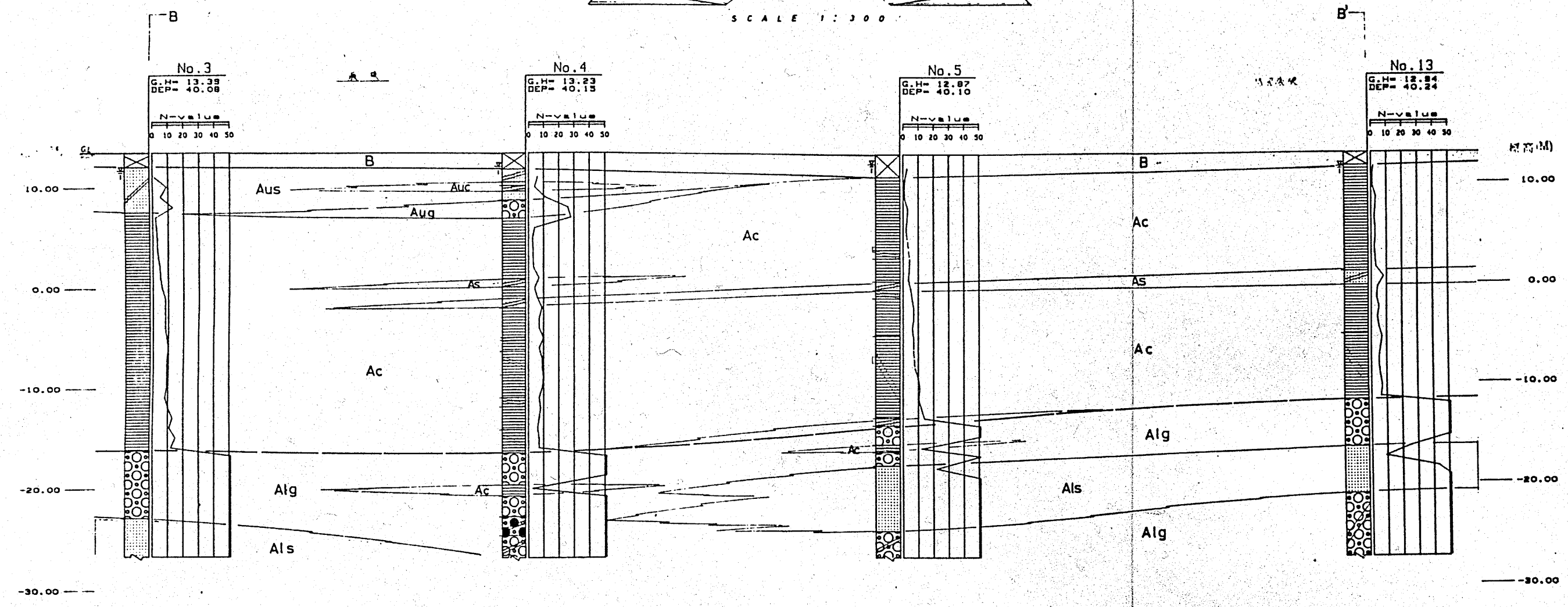
	土 質 名
	埋 土
	粘 土
	細 砂 . 中 砂
	粗 砂
	砂 礫
	玉石 混り 砂 礫
	砂 礫
	粘 土 質
	粘 土 混り
	礫 混り

地層記号凡例

記 号	地 層 名	
B	埋	土
Auc	粘 土 層	上部層
Aus	砂 層	
Aug	砂 礫 層	中部層
Ac	粘 土 層	
As	砂 層	下部層
Asg	砂 礫 層	
Alg	砂 礫 層	
Als	砂 層	
Dc	洪 積	層



地層想定断面図
SCALE 1:300

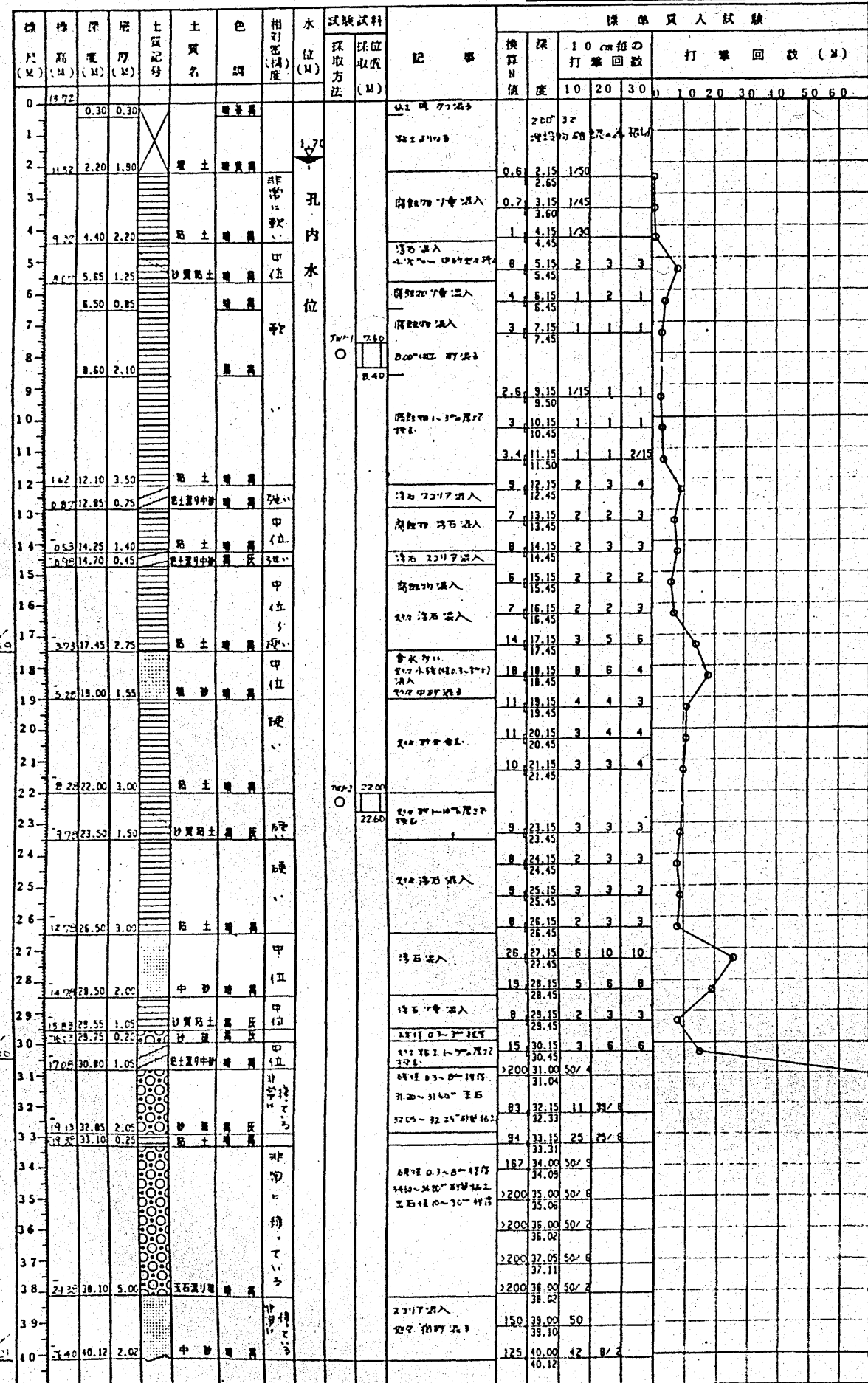


第1期工事
標

建設事務局			小田原市立病院建設			工事設計図		
局長	係長	係員	土質柱状図 - 2	縮尺 1:300	設計番号	伊藤 三郎	図面番号	構造
				尺 1:	作図 56年 7月 日			
株式会社 伊藤 三郎 建築研究所			一級建築士事務所登録番号 第2215号			二級建築士登録番号 第05770号		

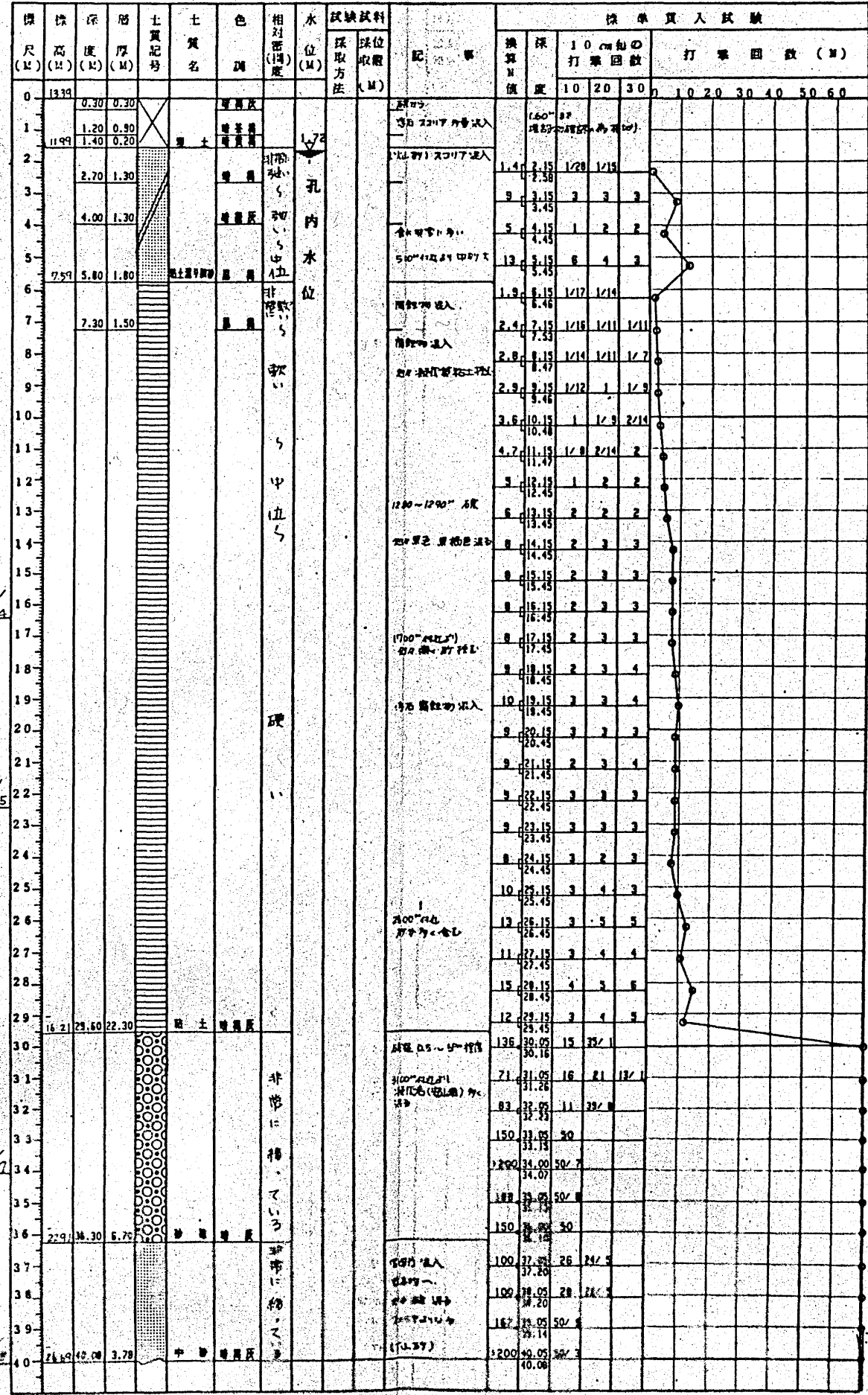
土質柱狀断面図

姓名	小田 京市 立教経産工科大学品管				調査技術員	中 島 幸 雄	32号 50 数字 12 試験番号
調査地	小 田 市 厚 町 4 6				担	〇1 - 1 迄 3 迄 材料	〇1 - 1 迄 3 迄 材料
試験機	5 号	10 号	12 号	40 X 12	著 手	〇2 - 1 2 裏入 裏出 12 材料	〇2 - 1 2 裏入 裏出 12 材料
試験開始日	14. 11. 27	14. 11. 27	14. 11. 27	14. 11. 27	定 数	〇3 - 1 2 7 - 材料	〇3 - 1 2 7 - 材料



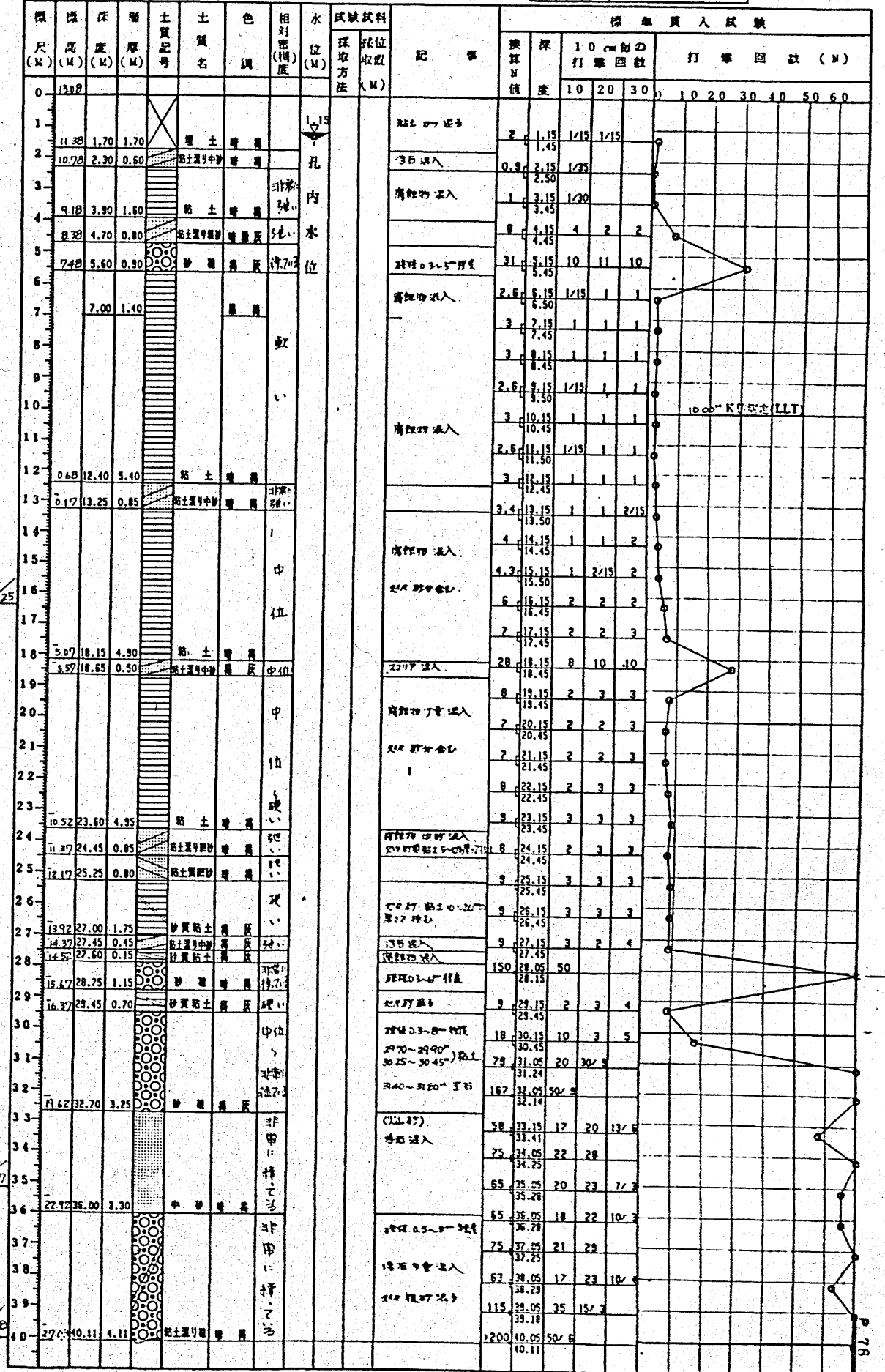
土質柱狀断面図

姓 名	小田原市立相模建設工事士会職員				調査技術員	村 水 俊 徳	記号 50 設計士試験番号
調査場所	小田原市入野 4 区				種 別	ツルミ技術試験会	①-1 入 入 入 入 入 入 入 入
調査年度	R. 1 - 100	調査年度	40M08	期 日	11月14 日		①-2 入 入 入 入 入 入 入 入
調査取組	インパンプ	試験方法	66 M-W	測 定	11月18 日	調査番号	21 - 052



土質柱狀断面図

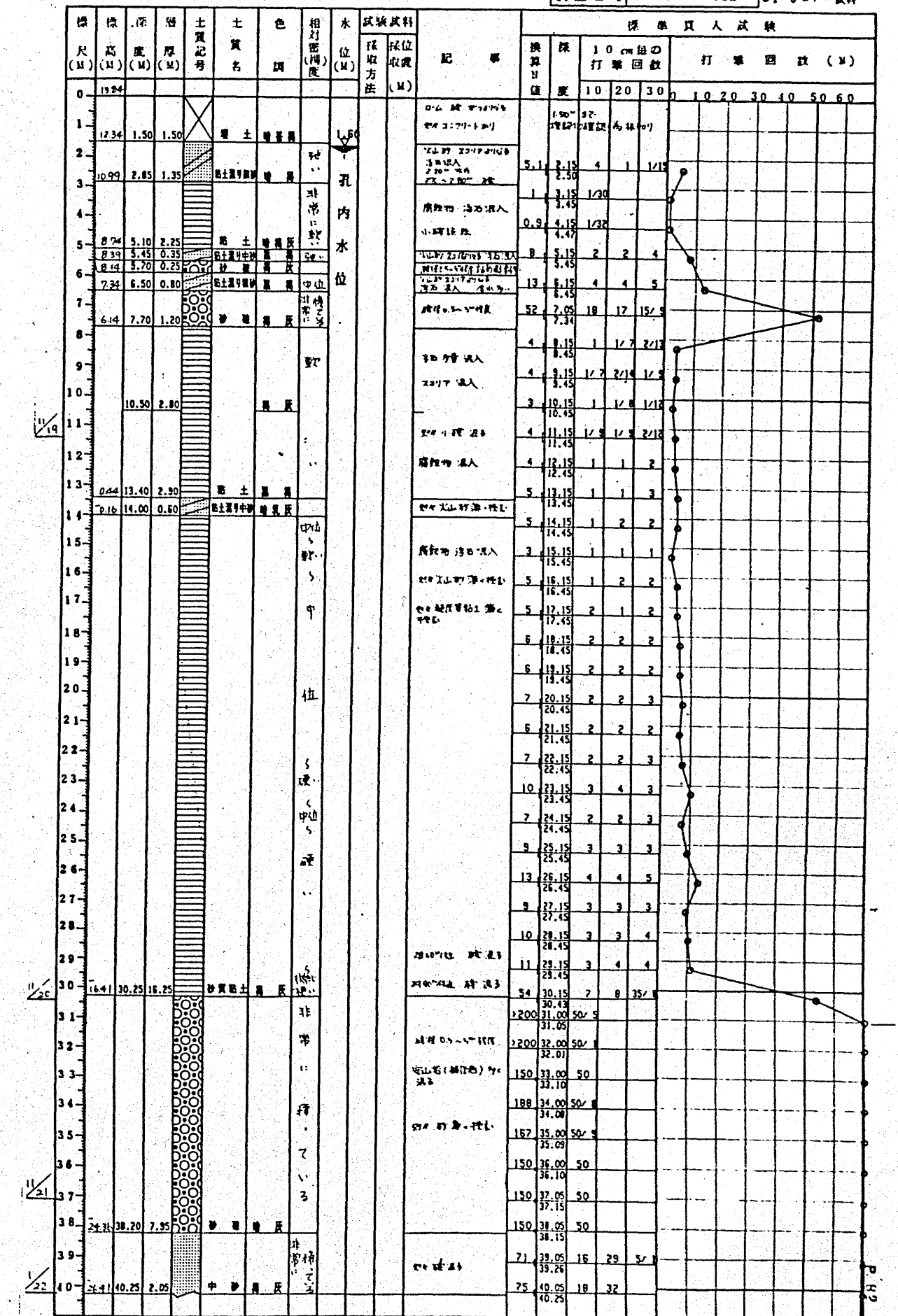
件名	小田原市立病院建設工事土質調査						調査技術員	中島幸雄	定号 60 計 1 (調査員番号)
調査場所	小田原市久野 46						担 当	ツルミ技術株式会社	①-1 是かい試料
採取層名	S ₁ R ₁ L ₁	深さ	40 M	寸	幅	11月25日			②-1 2番入試験に18試料
採取方法	ロータリーボー 試験孔内		φ 6 K-M	芯	径	11月28日	調査番号	21 - 052	③-1 3 = 7 - 試料



土質柱狀断面図

姓 名	小田原市立幼稚園 園長 野澤 水 6 礼				
調査場所	東京都 市 久野 46				
調査員	5. R. L - 160	調査年度	40 年 25	期 日	11 月 19 日
調査地区	レインボウタワー	放牧区	66 年 10 月	空 間	11 月 22 日

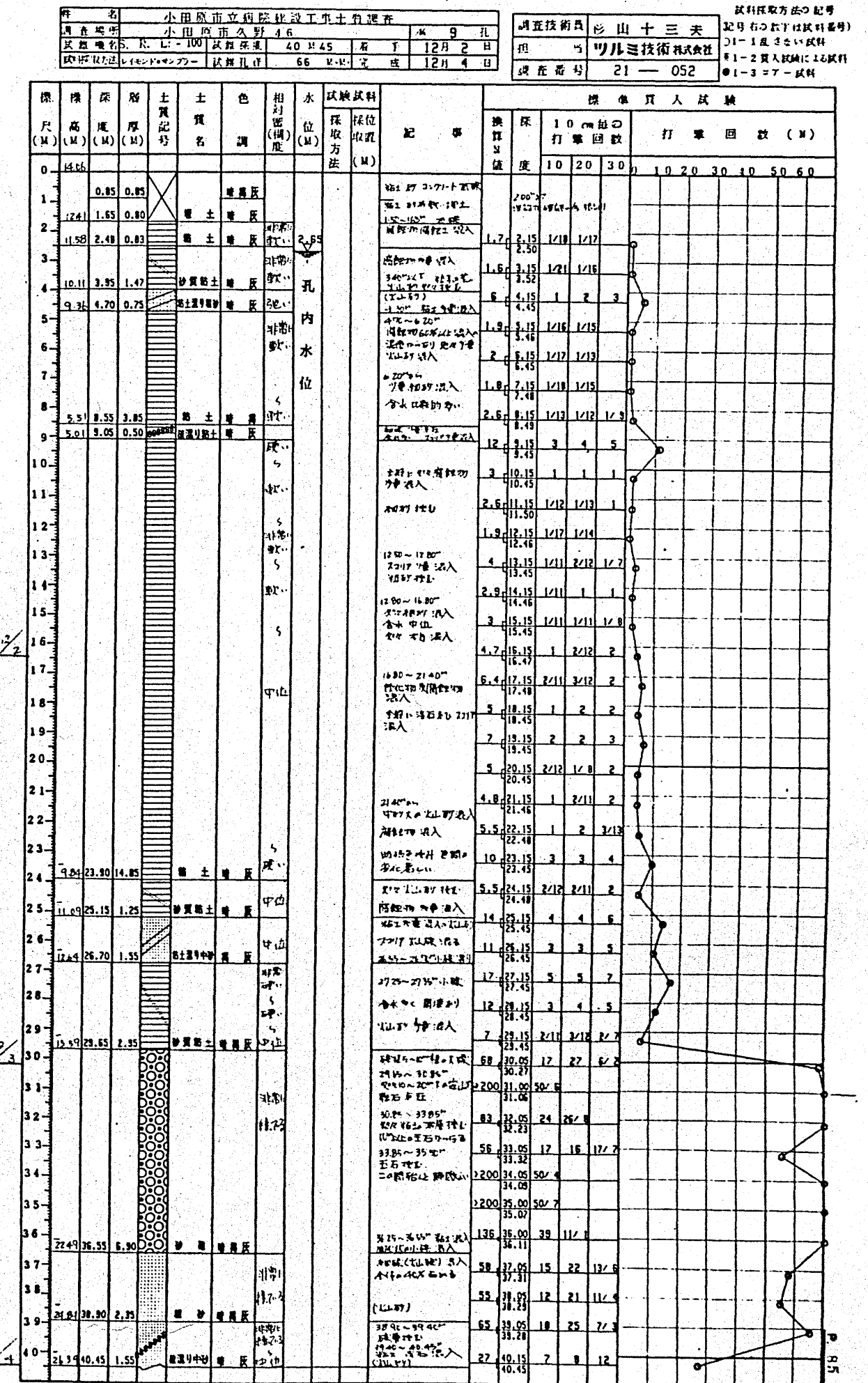
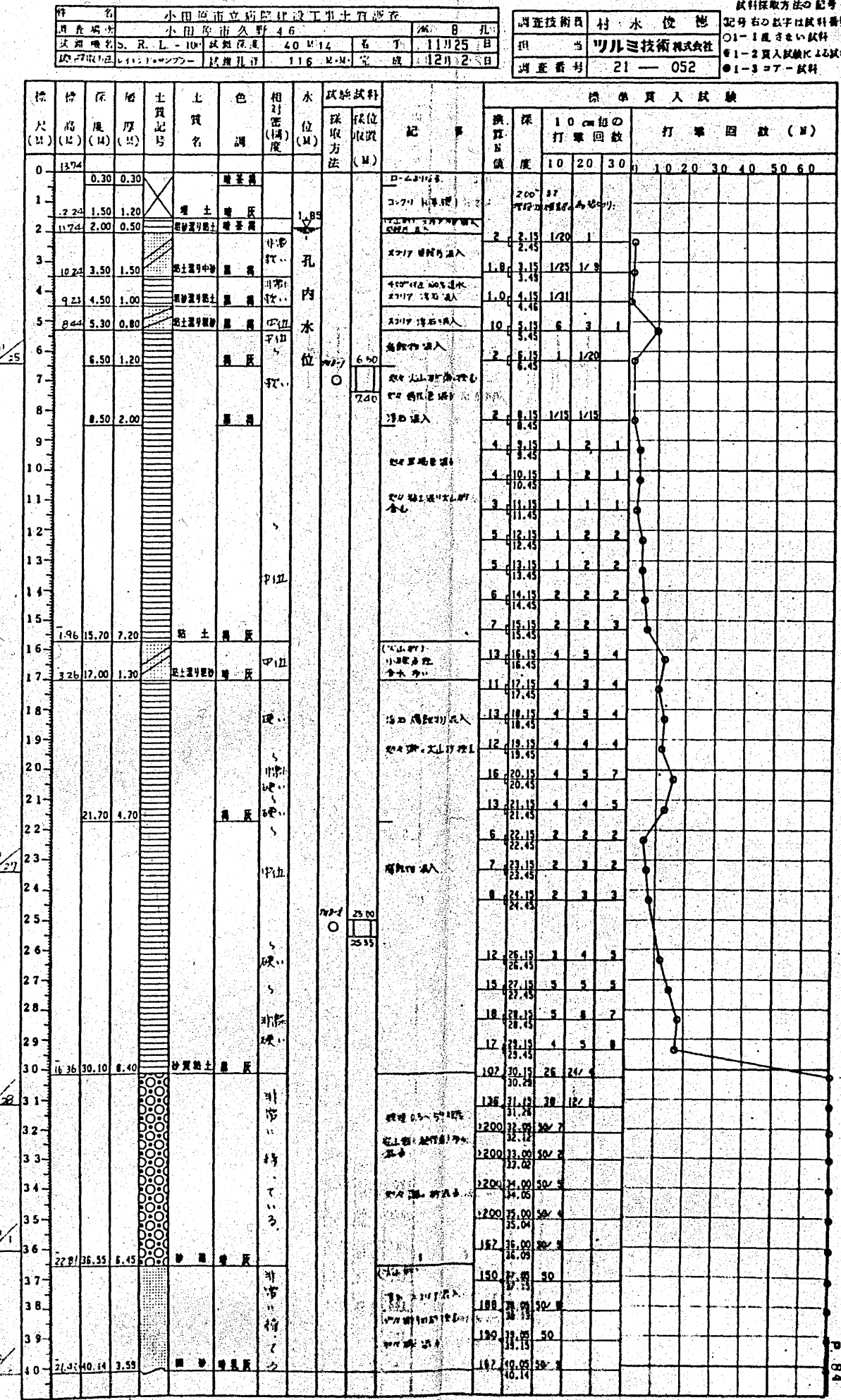
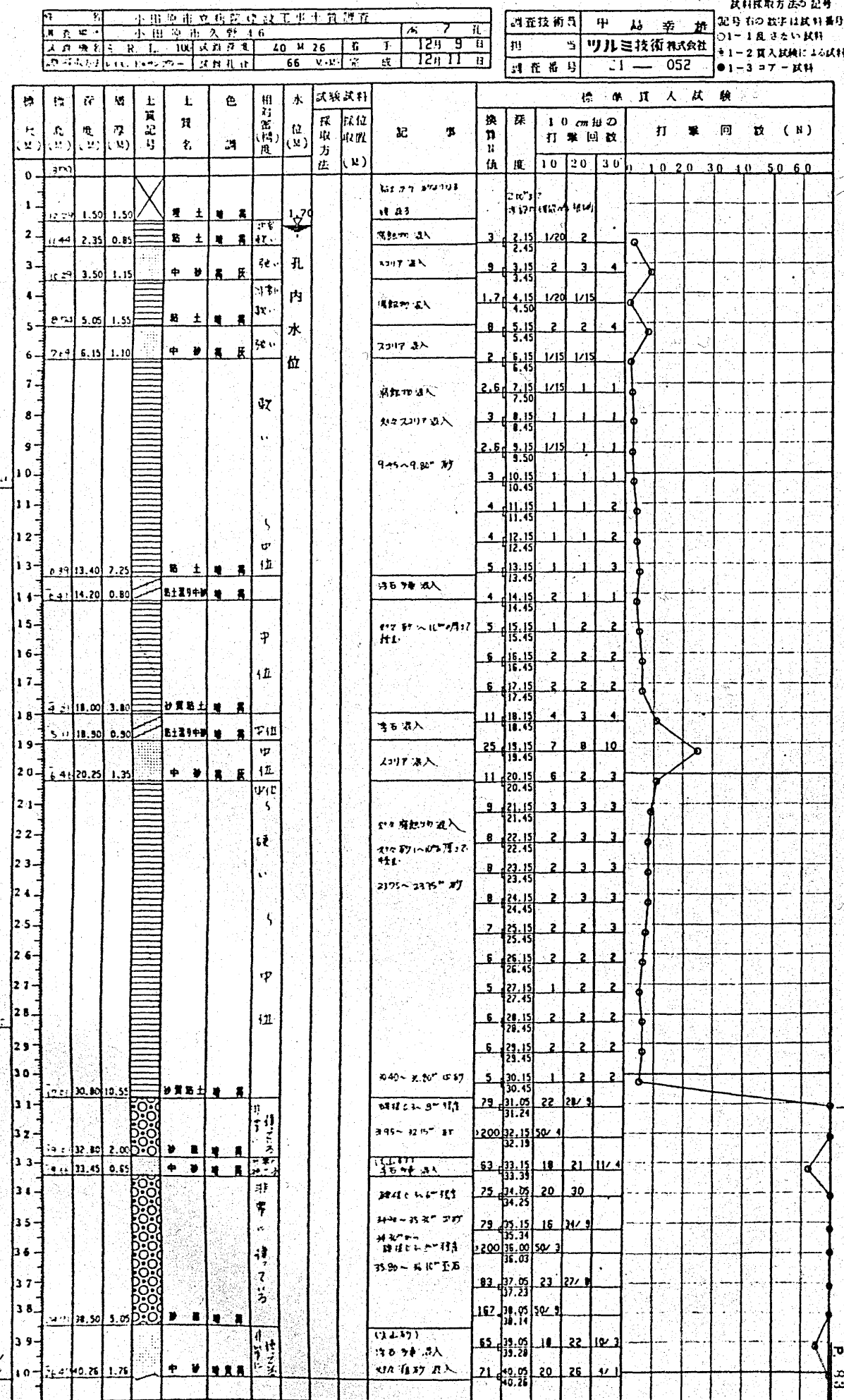
調査技術員	村 水 俊 徳	飼料採取方法の記号
担 当	ツルミ技術 株式会社	記号 60 年 11 月 (調査月)
調査番号	21 - 052	① - 1 ② 3 ③ 4 ④ 5
		① - 2 ② 4 ③ 飼料 ④ 飼料
		⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫



土質柱状断面図

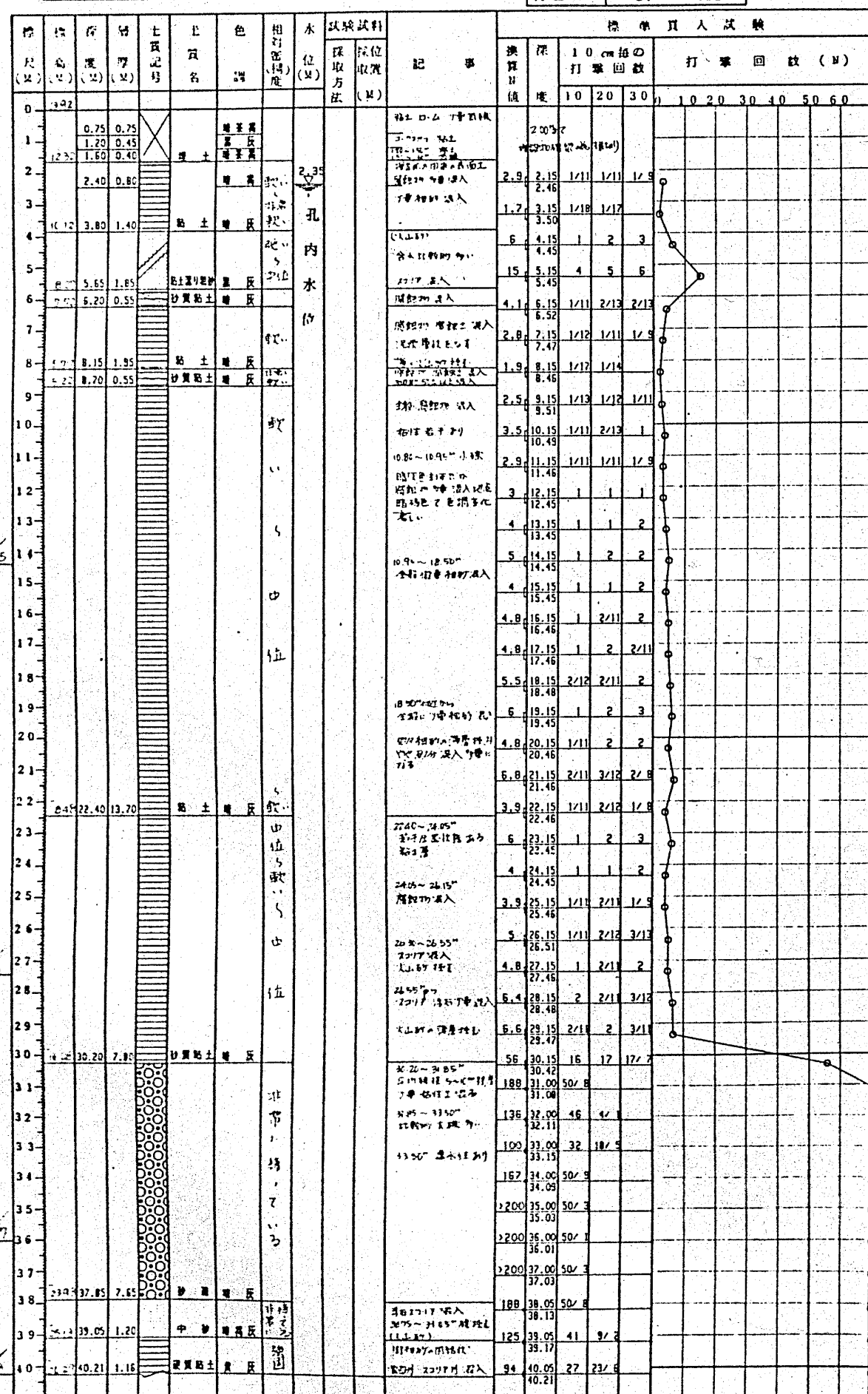
土質柱状断面図

土質柱状断面図



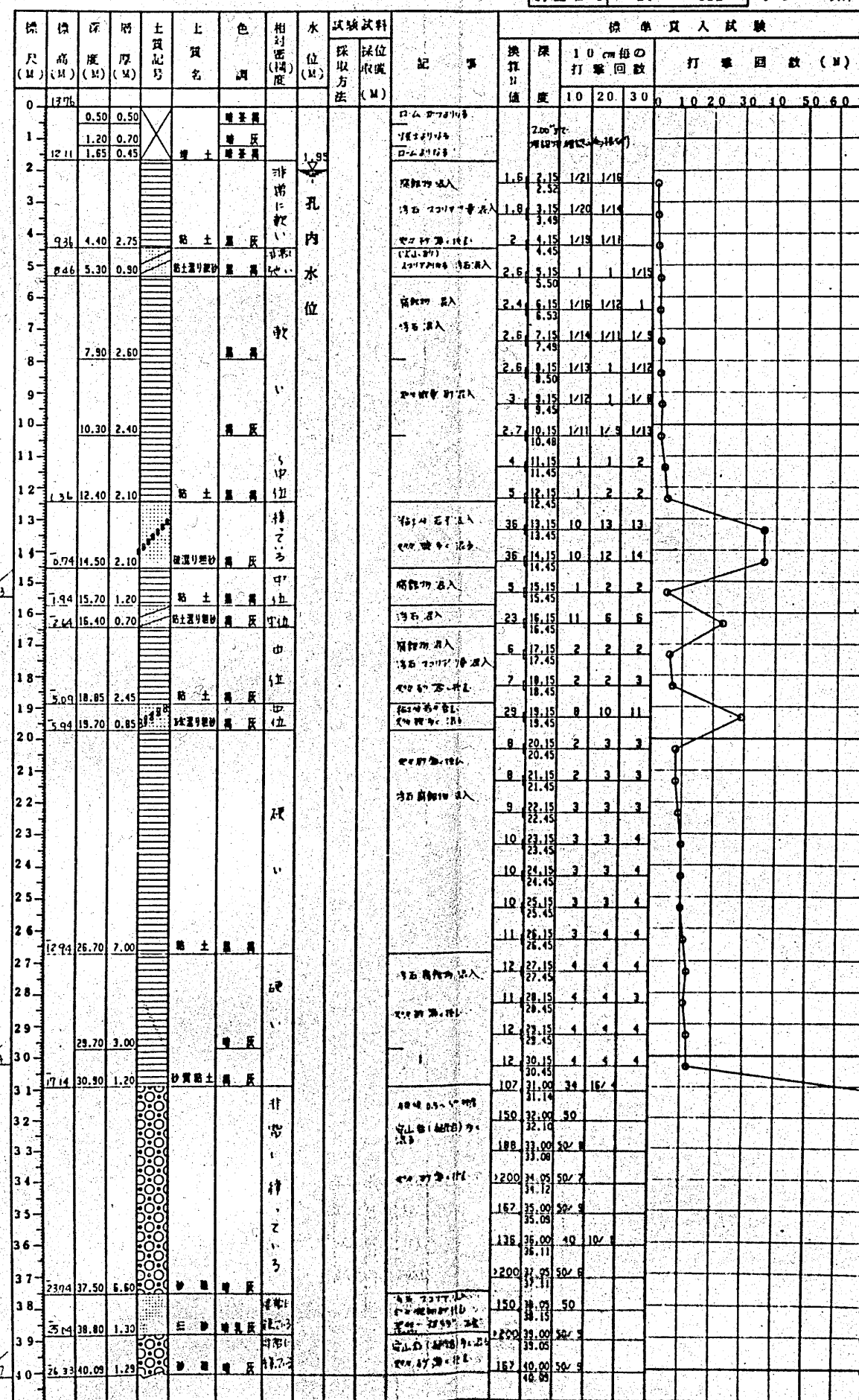
土質柱狀断面図

姓 名	小田川市立南小学校下中井君彦					調査技術員	杉山十三夫		2号の右の如き材料に用いた
生年月日	小田川市立野16					年	10	月	10
調査場所	R. 10-10、試験機					40	21	6	12
調査日時	昭和37年11月10日					66	12	12	11
調査番号						21	052		01-1号より同一材料
									01-2号の材料に用いた材料
									01-3号より同一材料



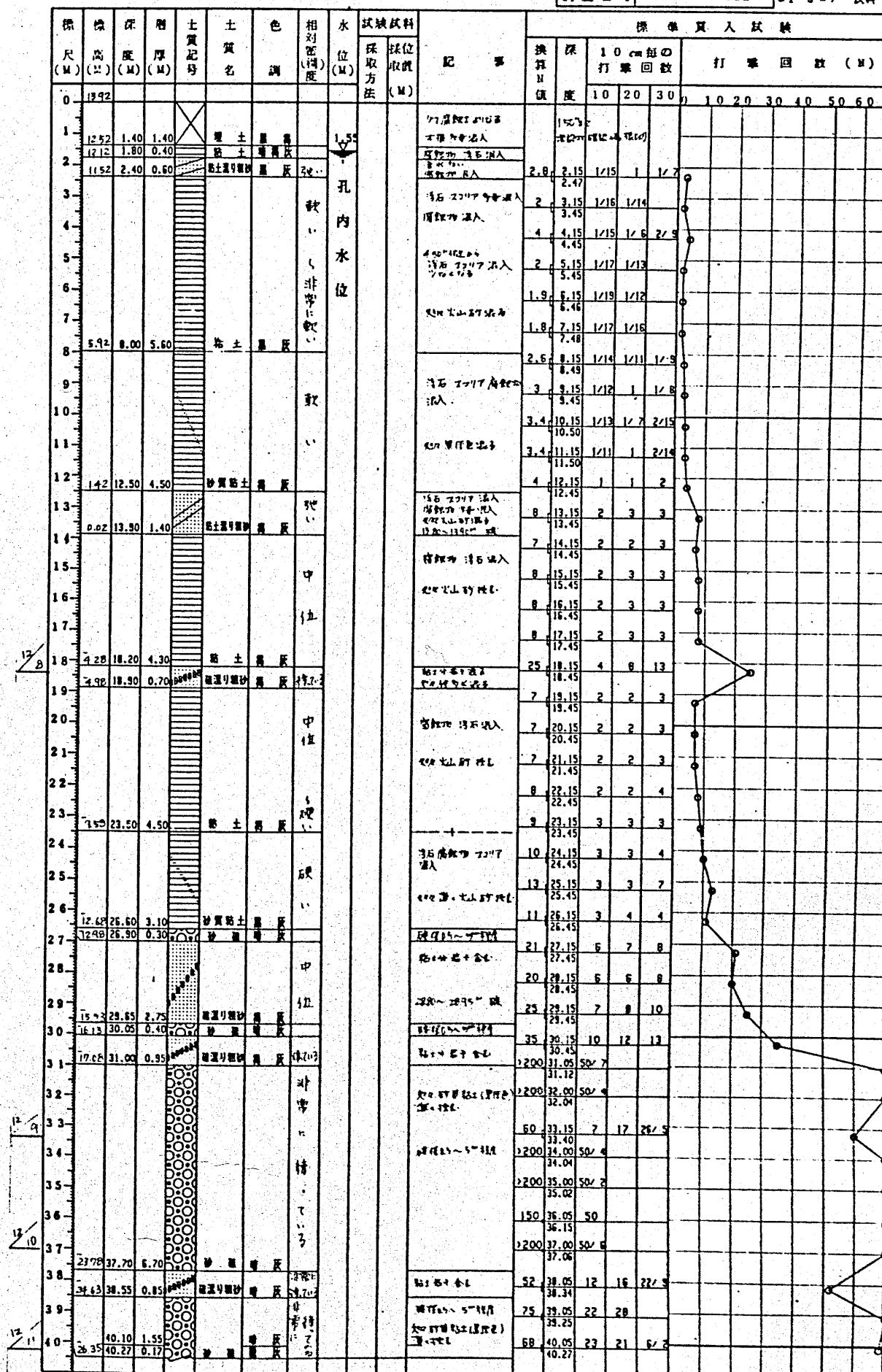
土質柱狀断面図

姓 名	小田原市立病院建設工事第11工区					調査技術員	村 永 俊 他
所在地	小田原市久保 46					現 場	〇1-16 〇16 〇17 〇18
技術者名	R. L. 19	40 M 09	基 子	124	3	現 場	〇1-2 〇18 〇19 〇20 〇21
調査月日	1964.10.27	10.27	66	〇16	完成	調査番号	21 - 052



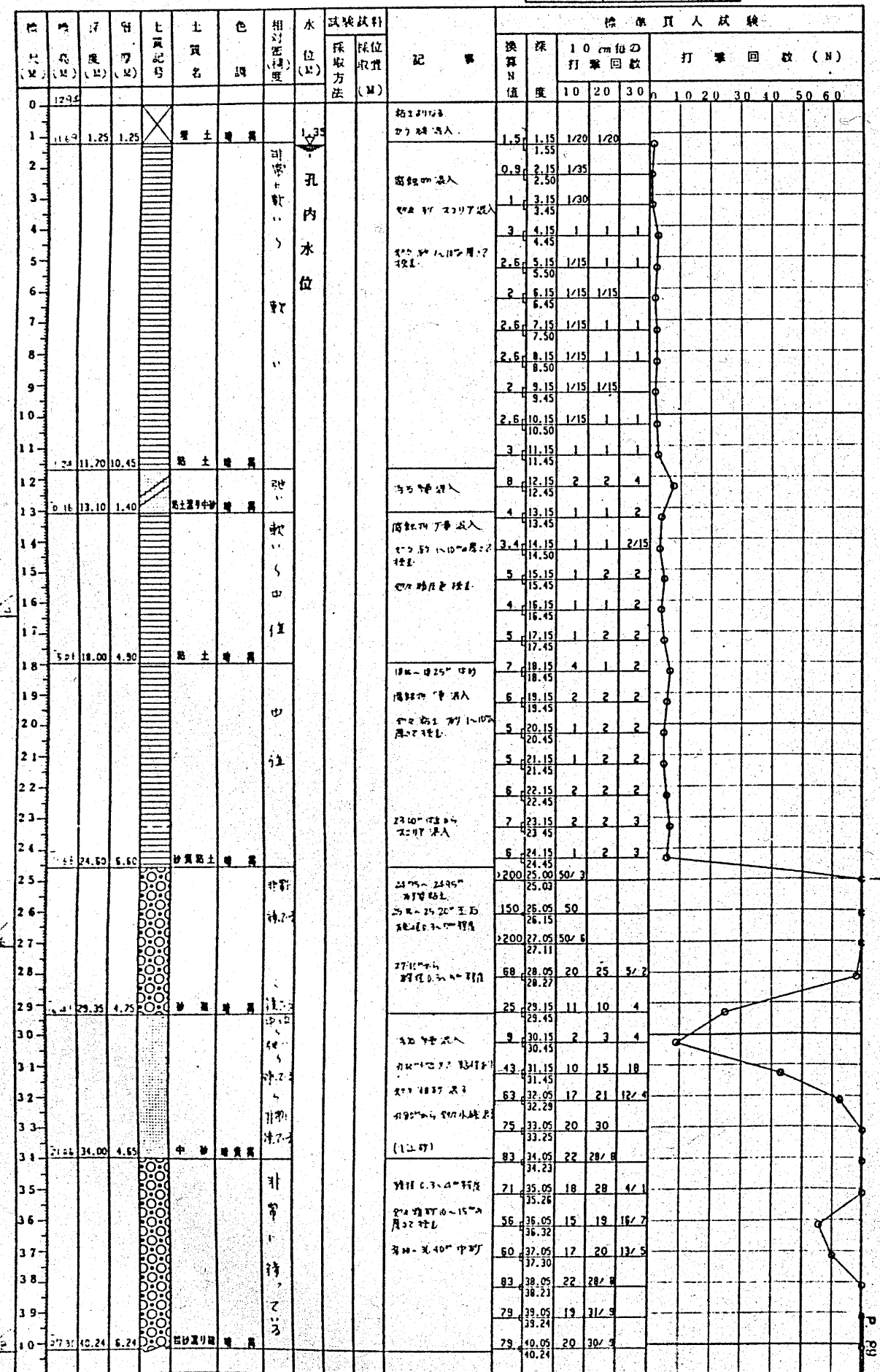
土質柱狀断面図

姓 名	小田原市役所建設工事七位員 齊				
調査場所	小田原市入野 46				
調査場所名	田上・山	距離	40 尺 27	電子	12 月 8 日
調査採取	ハンドポンプ	調査方法	66 水・底	底	12 月 11 日



土質柱状断面図

地質調査	小田原市立病院建設工事地質調査	図 13 孔	調査技術員	中 島 幸 雄	試料採取方法の記号
調査場所	小田原市久野46		調査者	ワルニ技術株式会社	記号 60 数字は試料番号
調査時期	7月10日 試料採取	40M 24	調査日	12月4日	○1-1 最上層の試料
調査深度	66M 24	66M 24	調査日	12月8日	●1-2 貫入試験に用いた試料
調査深度	66M 24	66M 24	調査日	12月8日	●1-3 37-試料



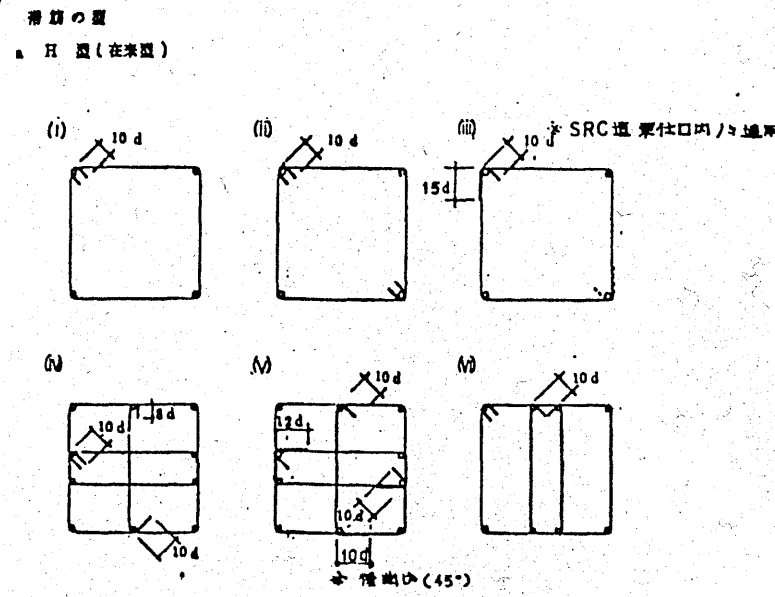
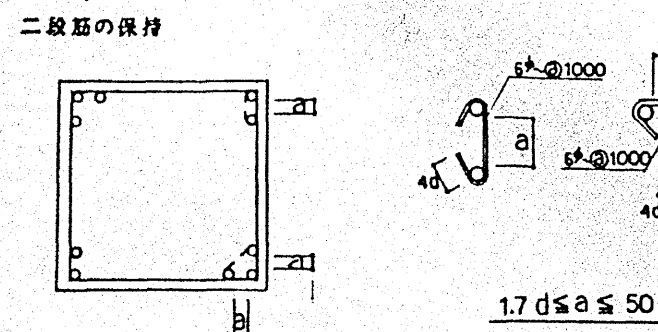
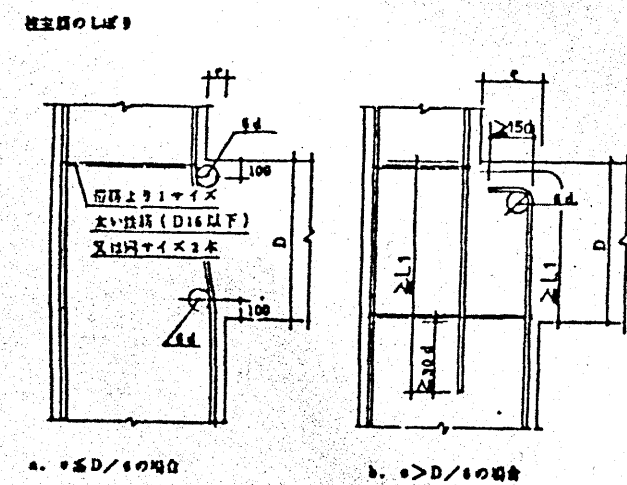
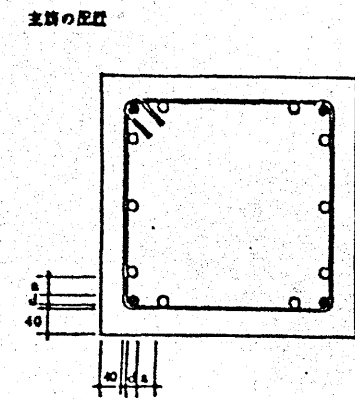
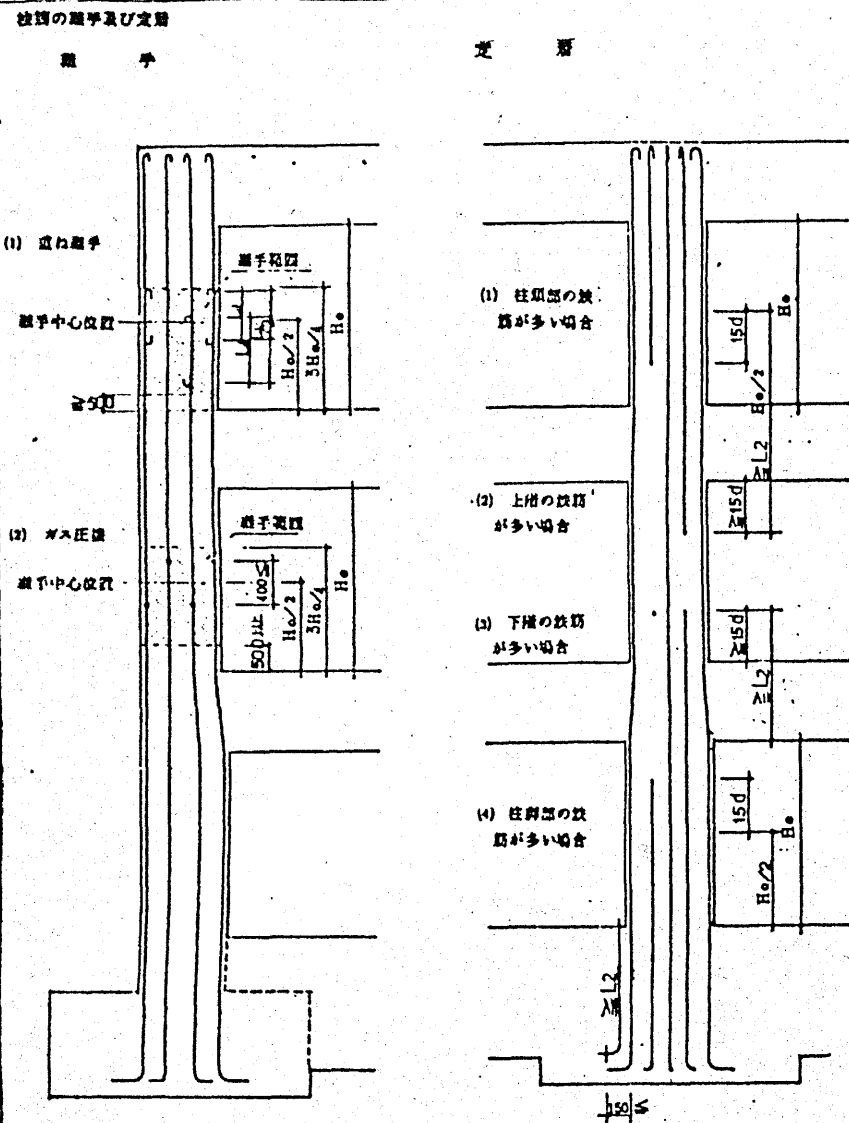
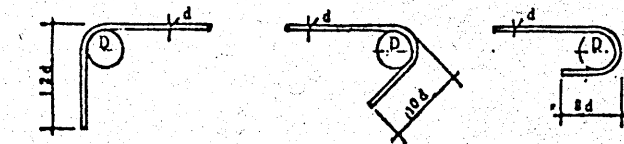


図1. フックおよび帯筋の位置は、交互とする。
2. 帯筋の寸法は、下記による。



W 型 (折渡型)

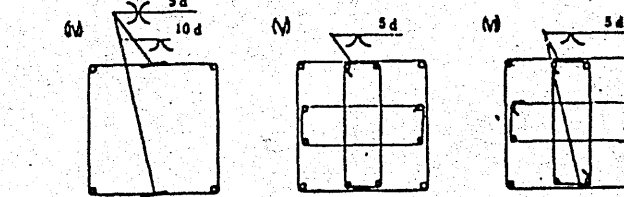
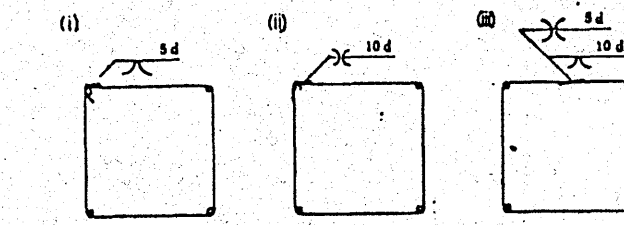


図1. 現場折渡をする場合は、主筋の位置を避ける。
2. 帯筋の位置は、交互とする。
3. 帯筋の寸法は、下記による。



W 型 (スパイラル型)

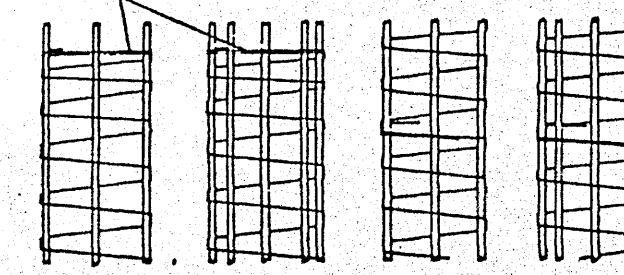
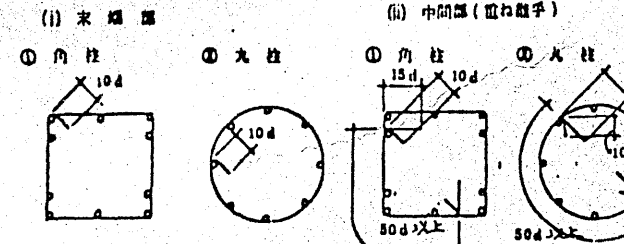


図1. 末端部の帯筋は、1.5d以上とする。
2. 中間部の帯筋の寸法は、50d 以上とする。

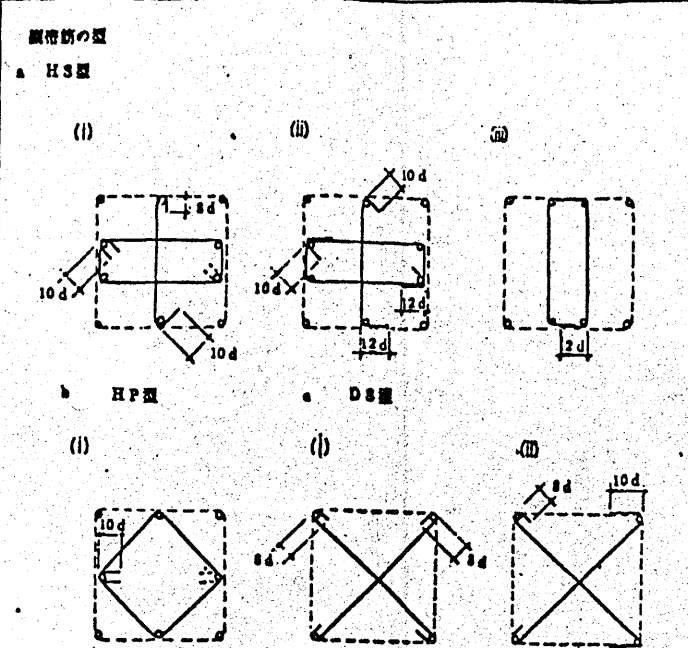


図1. フックおよび帯筋の位置は、交互とする。

W 3 型

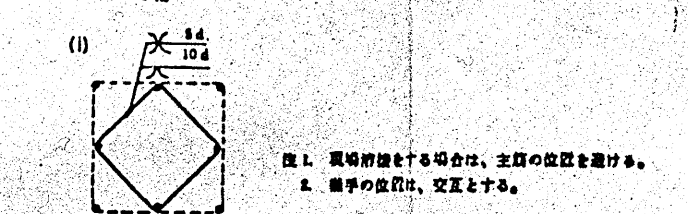
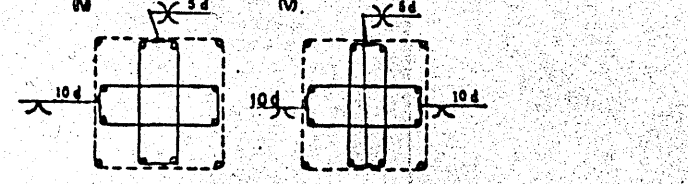
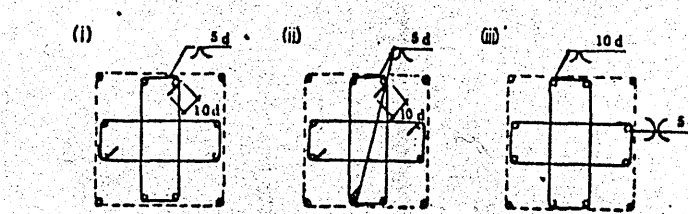
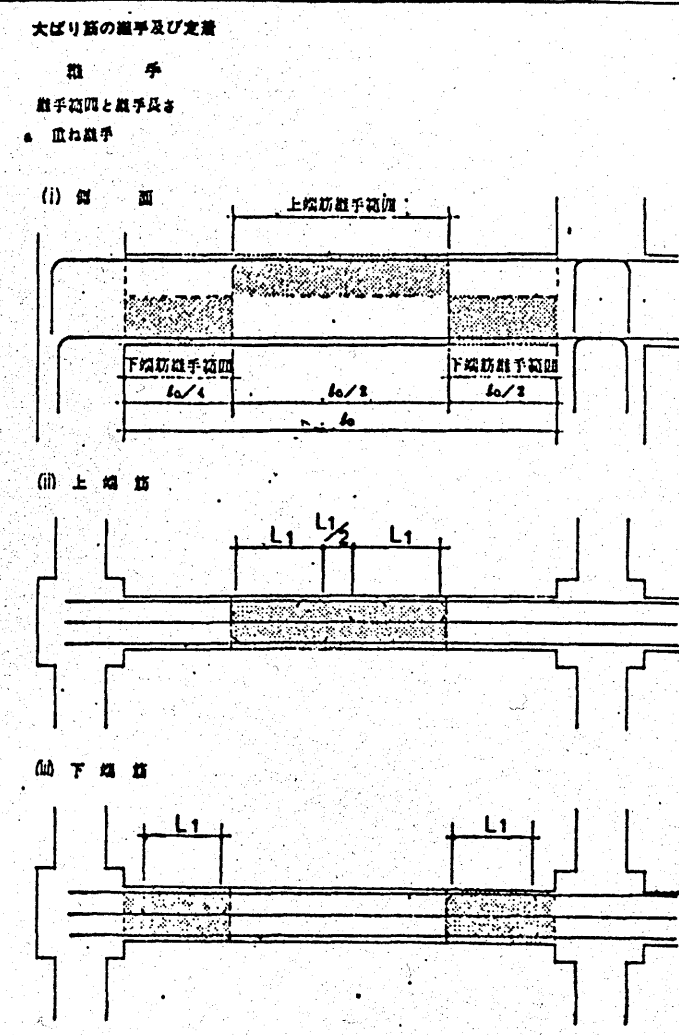
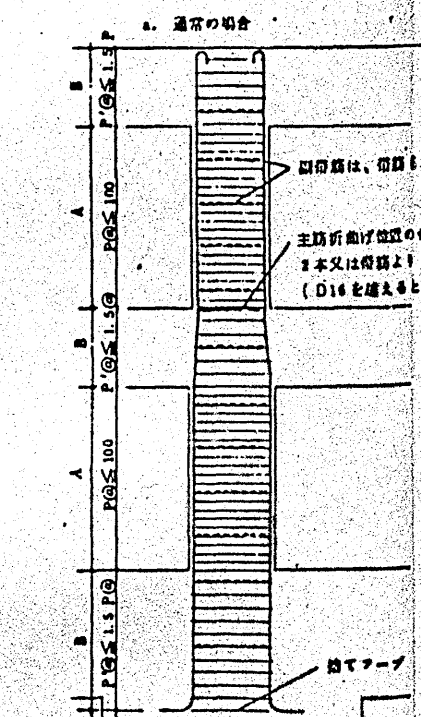
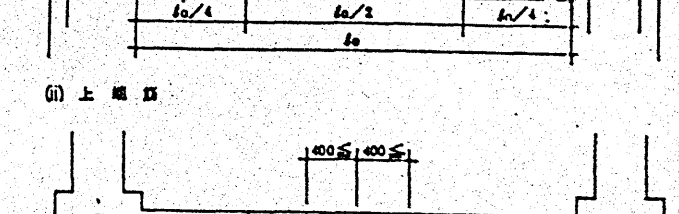
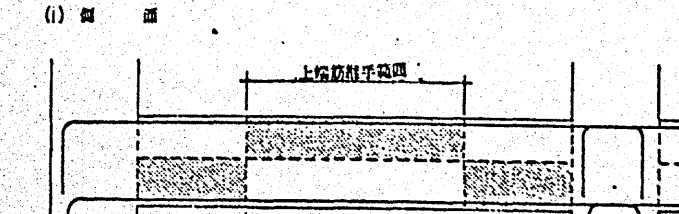


図1. 現場折渡をする場合は、主筋の位置を避ける。
2. 帯筋の位置は、交互とする。

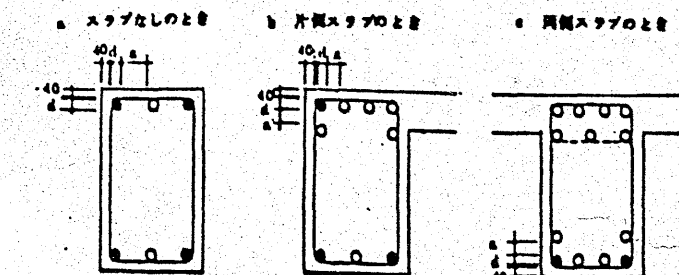
帯筋及び折渡筋の最大間隔



ガス圧縮及びその他の各種定着



主筋の位置



● フックをつける鉄筋
○ フックのつけない鉄筋
▲ 最大砂利径の1.25倍、1.7d (丸筋は1.5d)、
25mmのうちの最大値とする。

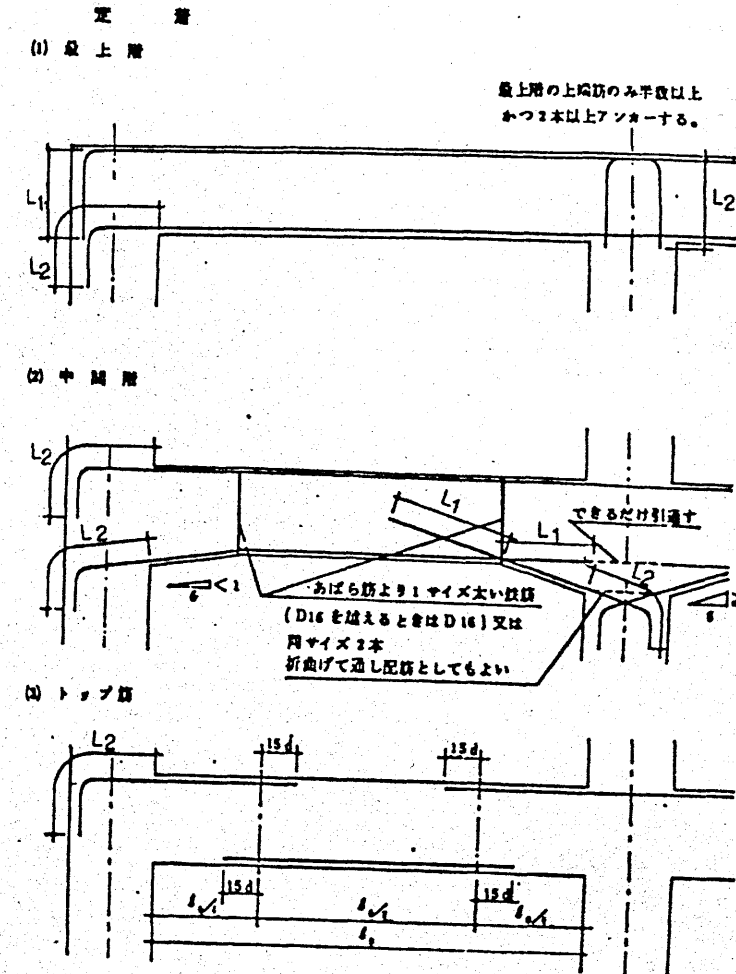


図1. 柱に斜めに取り合うは主筋の定着

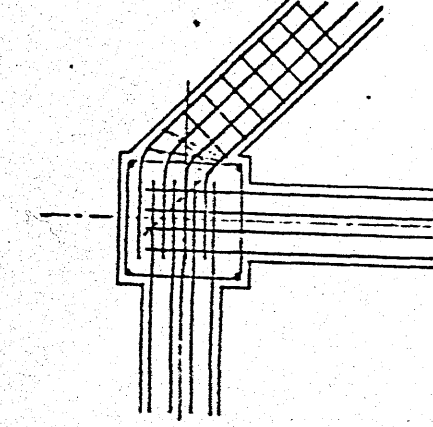
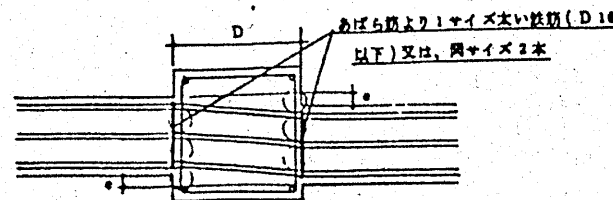


図1. はり主筋の定着は、柱を越えた位置に定着させる。
2. はり主筋の折渡(中間層)は、応力がスムーズに伝わるように、できるだけ斜めにする。
3. 折渡をしない場合は、点荷のように応力集中を避けるため、主筋が折渡りするところ、かぶり厚さの確保が図れるので、できるだけ斜めにして定着する。
4. 折渡筋のスパイラルは、見当り等により定着する。

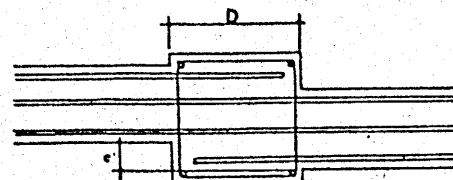
大ばり

最近いがある場合の配筋

平面上ではり筋が通る場合
(1) ϕ がD/4以内の場合



(2) ϕ がD/4を超える場合



(3) はり筋を通る場合

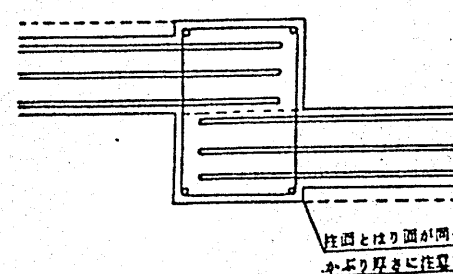
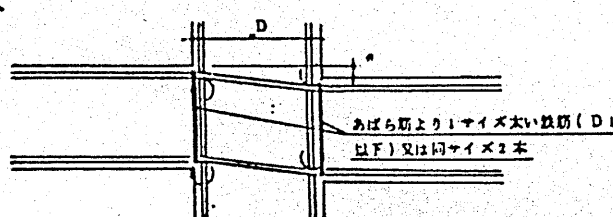


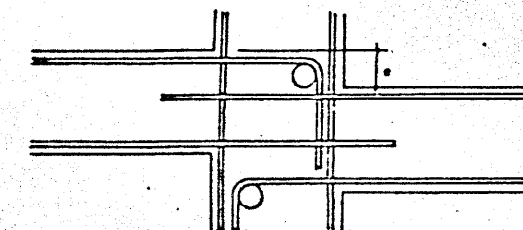
図1. 主筋の折曲げがD/4以下であっても、斜めにアンカーしてもよい。
2. (1)の場合、通し配筋ができるものは、通し配筋としてもよい。
3. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1サイズ太い鉄筋(D16を越えるときはD18)、又は同サイズ2本とする。

高低差がある場合

(1) ϕ がD/4以内の場合



(2) ϕ がD/4を超える場合



(3) はりのせいを越える場合

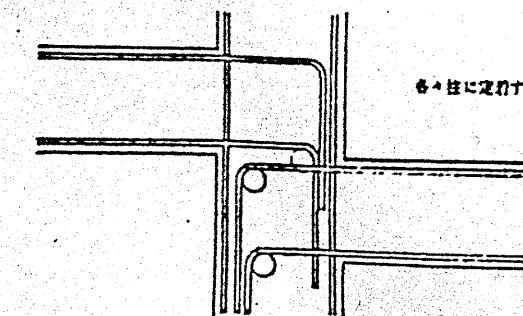


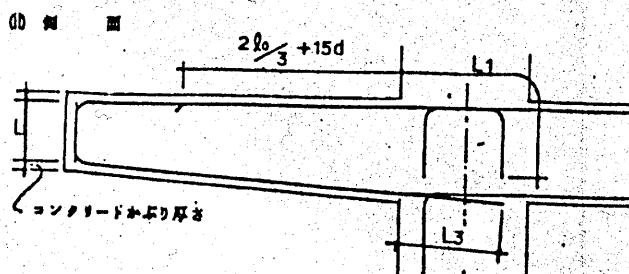
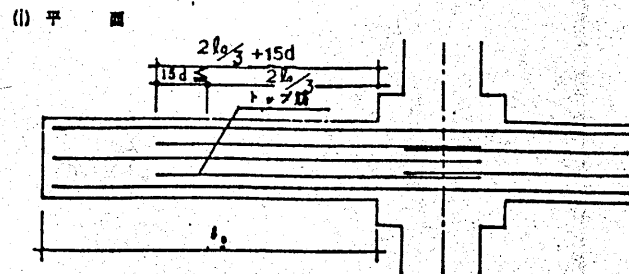
図1. 主筋の折曲げがD/4以下であっても、斜めにアンカーしてもよい。
2. 主筋を折曲げて通し配筋とする場合は、柱面より内側にあばら筋より1サイズ太い鉄筋(D16を越えるときはD18)、又は同サイズ2本とする。
3. はり筋が通る場合で高低差がある場合は、原則として斜めにアンカーする。

小ばり及び片持ちばり

片持ちばり

先端に小ばりがある場合

a. 柱の反対側にもはりがある場合



b. 柱の反対側にはりがない場合

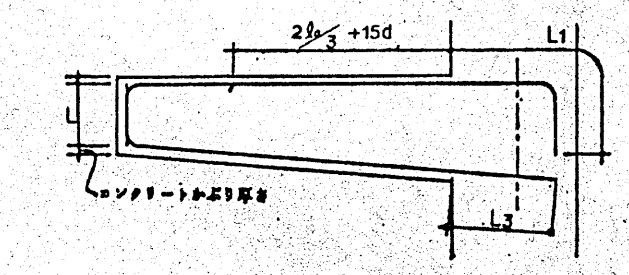
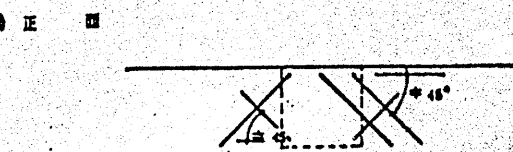
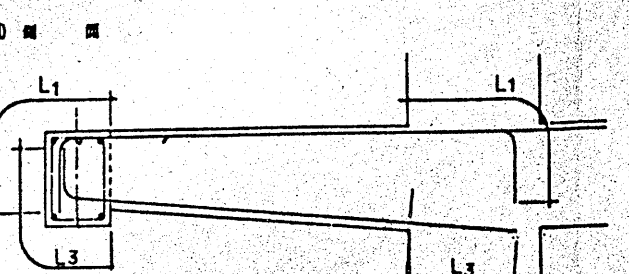
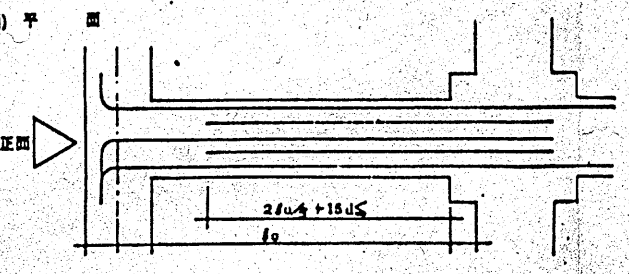


図1. 主筋の定荷は、柱面を越えた位置でアンカーする。
2. 反対側のはりと鉄筋がない場合には、主筋はアンカー又は引通しのいずれでもよい。
但し全数引通せる場合でも上端筋は2本以上は柱に定着する

先端に小ばりがある場合



小ばりへのアンカーは、小ばり中心より外側で曲げ、又縦方向のみで不足の場合は、斜め方向に定着する。

小ばり

(1) 断面

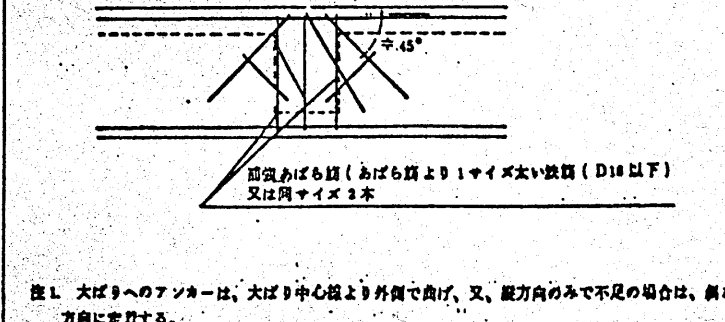
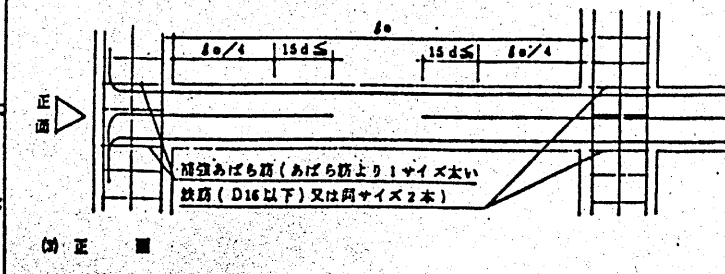
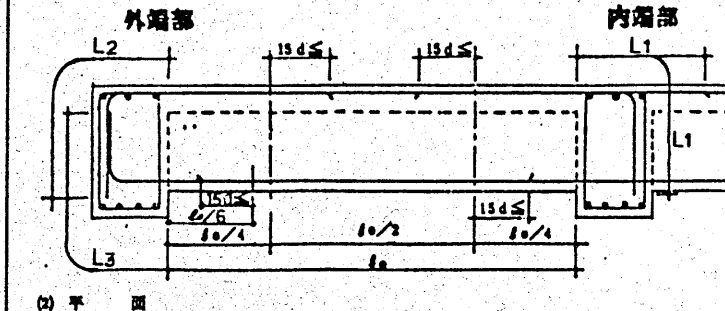
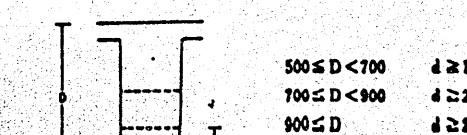


図1. 大ばりへのアンカーは、大ばり中心より外側で曲げ、又、縦方向のみで不足の場合は、斜め方向に定着する。
2. 小ばり取付部のあばら筋を忘れないこと。
3. 小ばり主筋のアンカーは、かぶり厚が十分とれる場合を除き、原則として水平アンカーは避けること

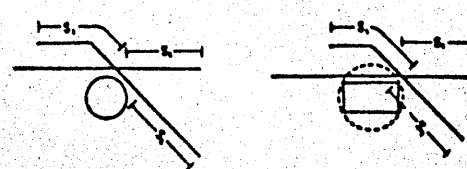
はり貫通孔補強

補強事項

1. 孔の径が、はりせいの1/4以下の場合には補強筋を必要としない。
ただし、孔の径が150以上となる場合はB形標準の補強とする。
2. 孔が円形でない場合は、外周孔におきかえて各標準配筋を適用する。
3. 孔の上下方向の位置は、はりせいの中心付近とし下記による。



4. 孔の中心位置は柱及び梁の中心よりはり(小ばり)の面から1.5D以上はなすことを原則とする。
5. 孔が非対称な場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 補強筋は原則として主筋の内側とする。
7. 鉄筋の定荷はき

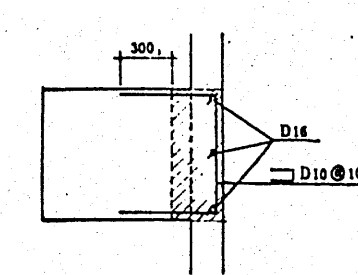


8. 定荷筋はあばら筋をみなす。

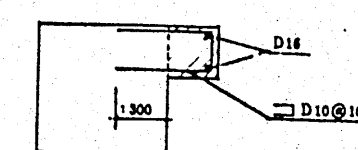
柱はり打ち増し補強筋

柱の打ち増し

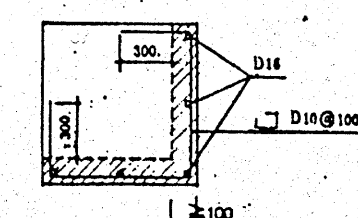
a. 柱が柱からはずれる場合



b. シェッド、防火扉等を設置する補強の場合

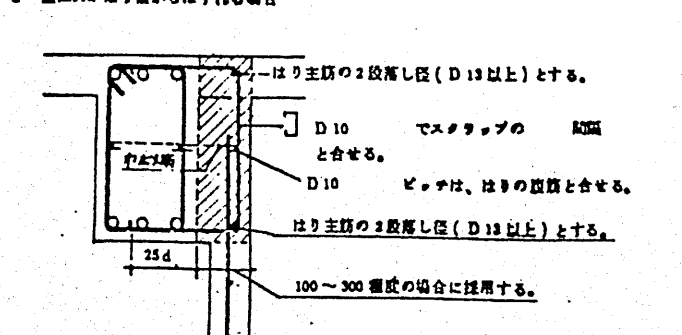


c. 柱全体を打ち増しする場合

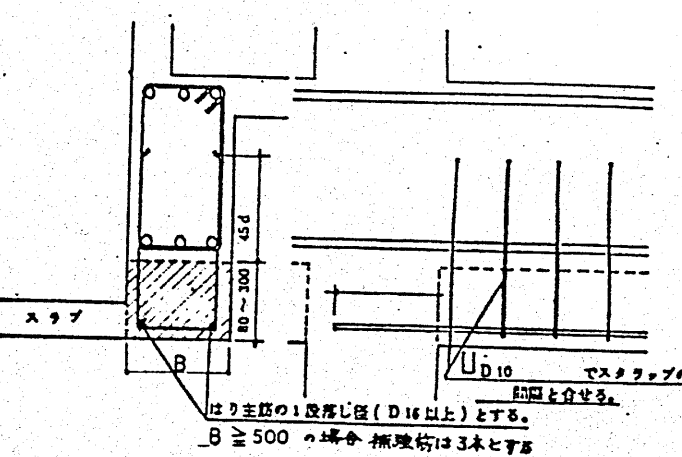


ふかしばり

a. 鉄筋位置がはり筋からはずれる場合



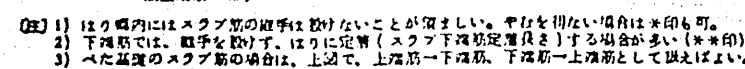
b. はりのせいがふさがる場合



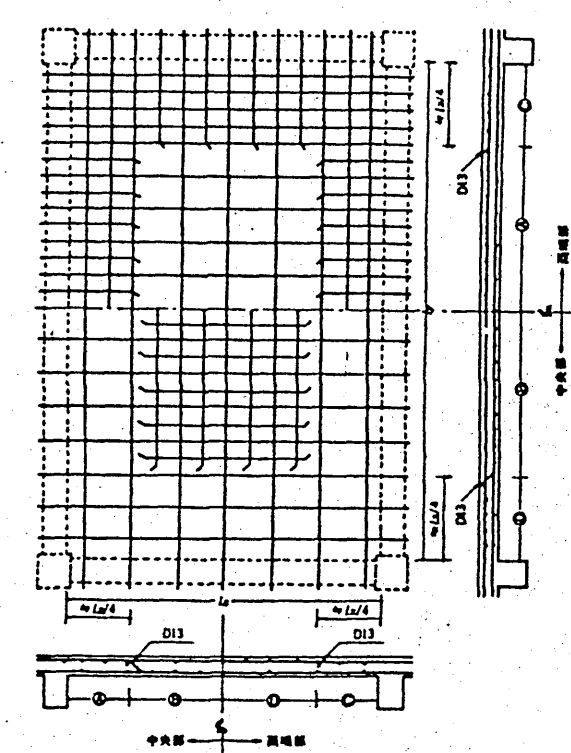
人形、B形場地產建築

(注) () 内はB形の場合のみ。

·D也五平配五五



△基本操作练习



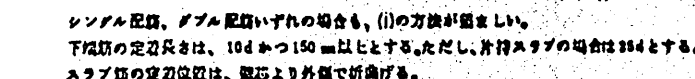
床原稿の離平及び定数

概下はきは、 L_1 とする。

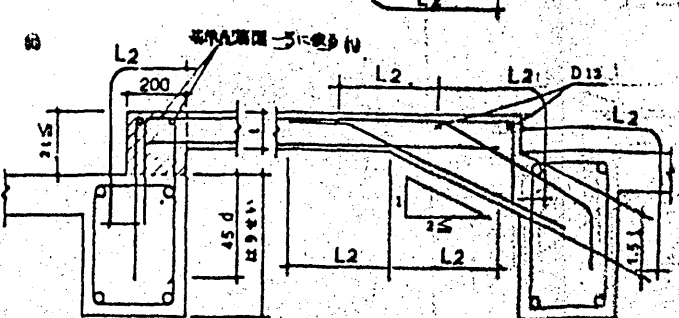
競争長さのとれない場合は、配筋などを検討して延滞費とすることが
できる。ただし、片面清接の場合は10d、両面では5dを標準とす
る。なお、dは鉄筋の公称直径を示す。

1892

● 外 烟 部



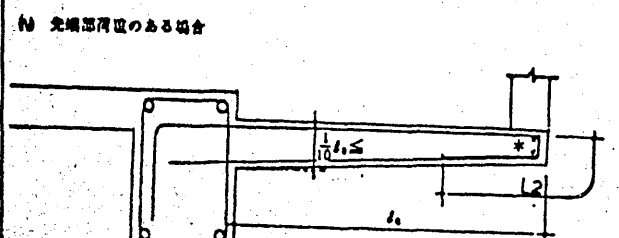
はりと床スラブに高低差がある場合



片持スラブの配筋

パルコニーの配筋

● 出資比率と配当が異なる場合の配当



同一床スラブに段差がある場合の配筋

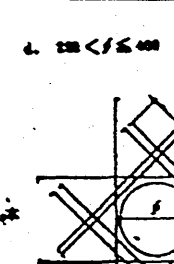
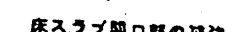
(1)



- 股益が小さい場合 (0.5以下)



● 埋入組合（埋入部0.5以下）



注1. 開口によつて防犯上の危険と同等の危険で周囲を監視し、この月曜は、北を方向に8-D15 (11/11) (11-11)と、上下段の内外に配置する。

鉄筋の基準配筋
収められ配筋は下記により、図表を参照する。
一般の型

断面	厚さ	配筋
W10	100	D10-250mm シングル
W12	120	D10-200mm シングル
W15	150	D10-200mm ダブル
W18	180	D10-200mm ダブル
W20	200	D10-200mm ダブル

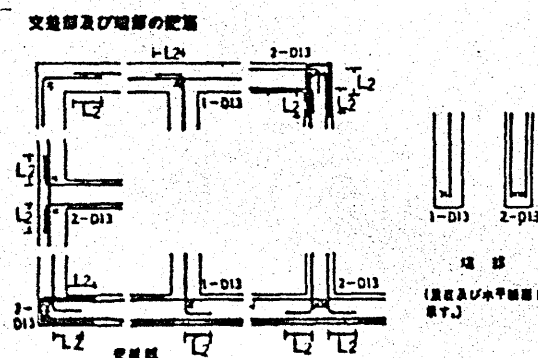
(注) 鋼材の量は、断面(9d XはD10)-1,000mm程度とする。

片持ち梁の配筋を受ける型

断面	厚さ	配筋
W10	100	D10-250mm シングル
W12	120	D10-200mm シングル
W15	150	D10-200mm ダブル
W18	180	D10-200mm ダブル
W20	200	D10-200mm ダブル

(注) 1. 鋼材の量は、断面(9d XはD10)-1,000mm程度とする。
2. 鋼材の量は、断面(9d XはD10)-1,000mm程度とする。

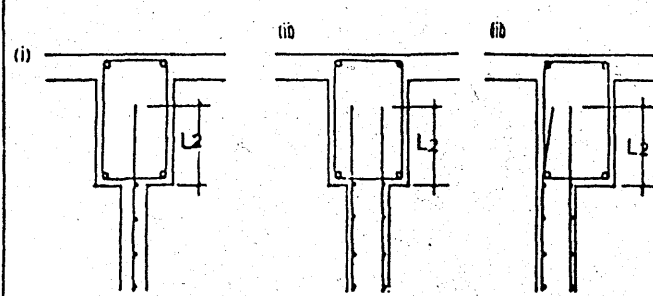
施工場所	コンクリート厚さ(mm)	配筋	先立補強筋
パラペット	100	D10-250mm シングル	4-D10
外壁に面する部分	120	D10-200mm シングル	2-D10
内壁に面する部分	150	D10-150mm シングル	2-D10



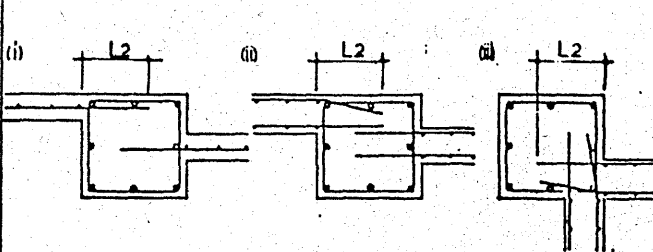
壁の断面及び配筋

一般の型

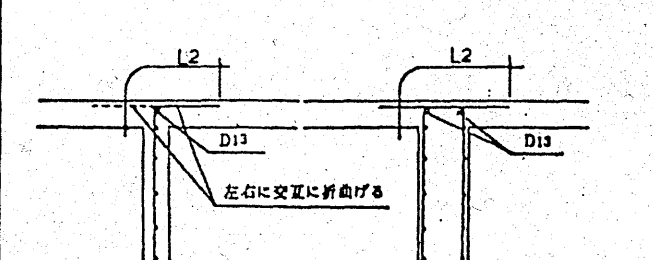
一般の型



一般の型

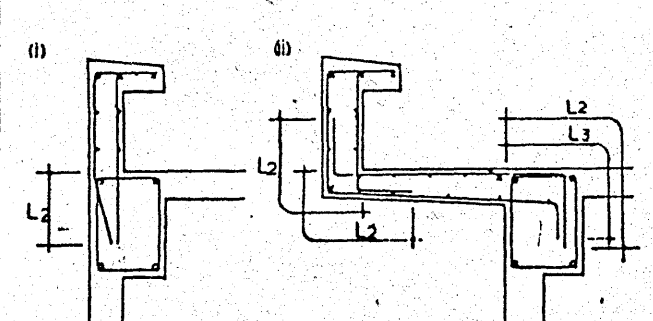


一般の型

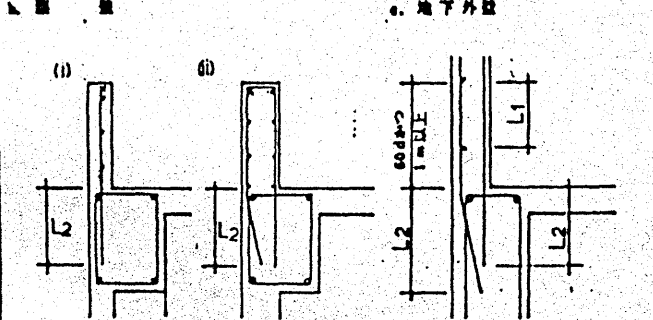


その他の型

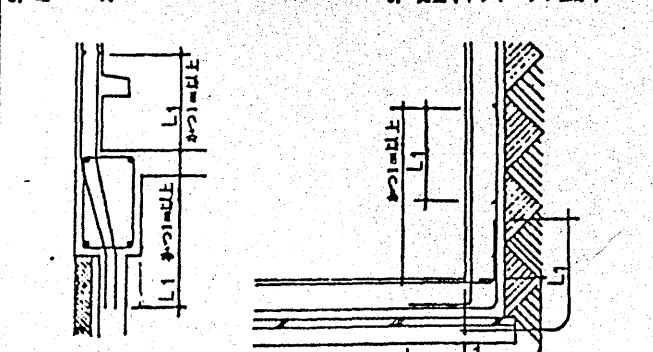
一般の型



一般の型

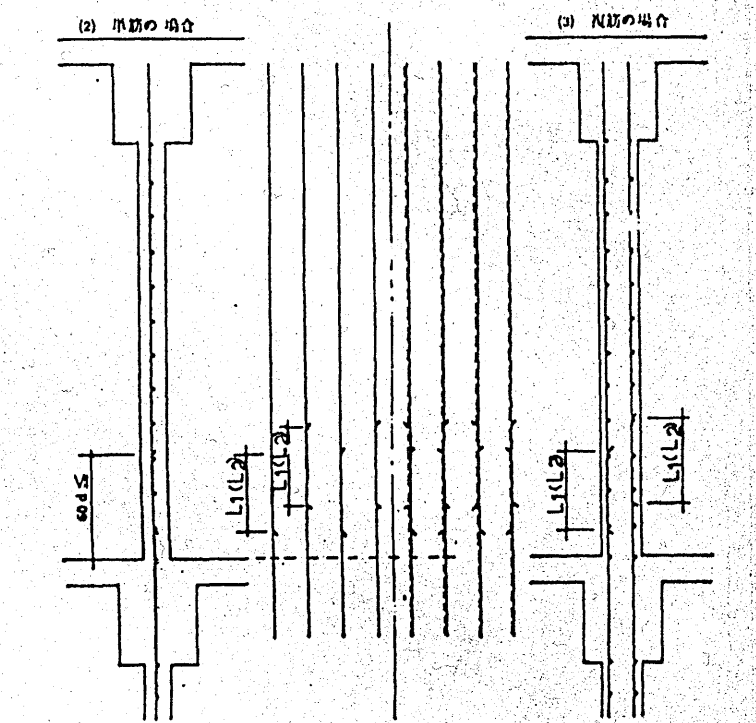


一般の型

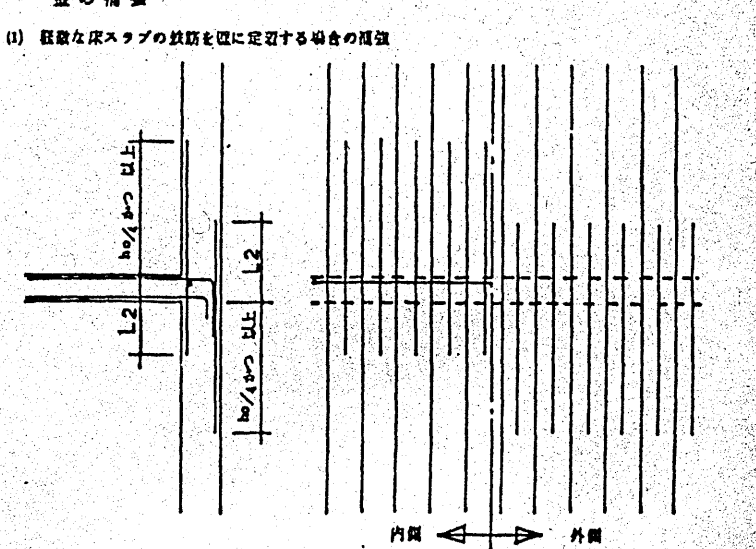


壁の断面

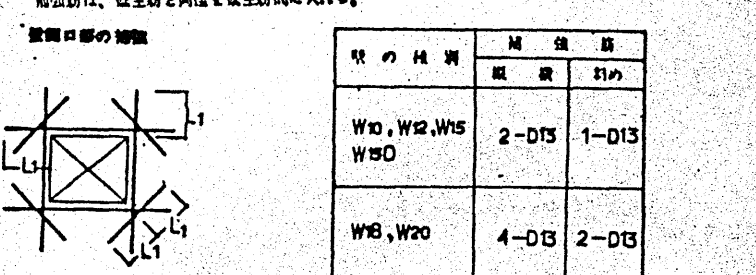
- 一般事項
 - 耐力壁、地下壁、壁等(独立壁を除く)等の配筋は、L1とする。
 - パラペット、壁等の配筋には、原則として配筋を設けない。
 - その他の配筋等の配筋は、L2とする。
 - 配筋は、床又ははりより区画された区画内で行うものとする。
 - 床スラブ上で打設する場合、配筋は内法面から45d以上と80d以上を交互に延ばしておくこと。
 - 配筋位置は一般にその間隔に、鋼筋は交互に15d程度の差をつける。



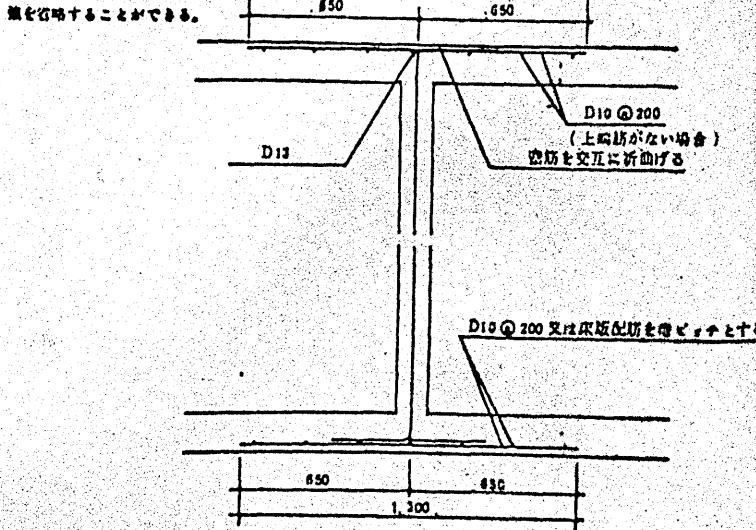
壁の補強



配筋は、壁主筋と間筋を壁主筋間に入れる。



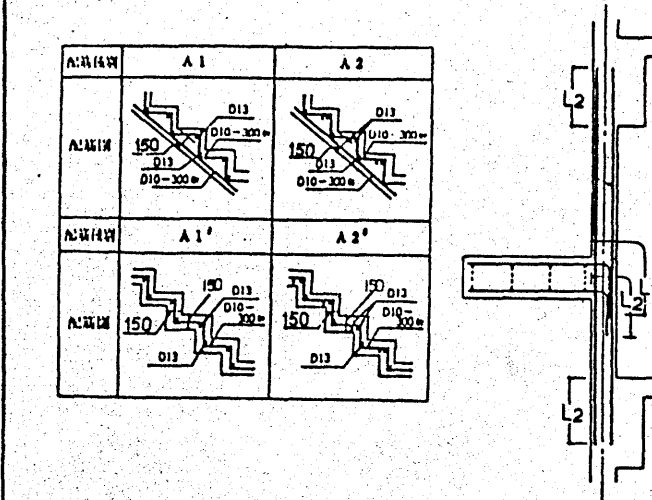
(注) 開口部が、はりに接する部分及び開口部が500mm以下で、鉄筋をゆるやかに曲げることにより、開口部を空けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



階段

片持ち梁断面

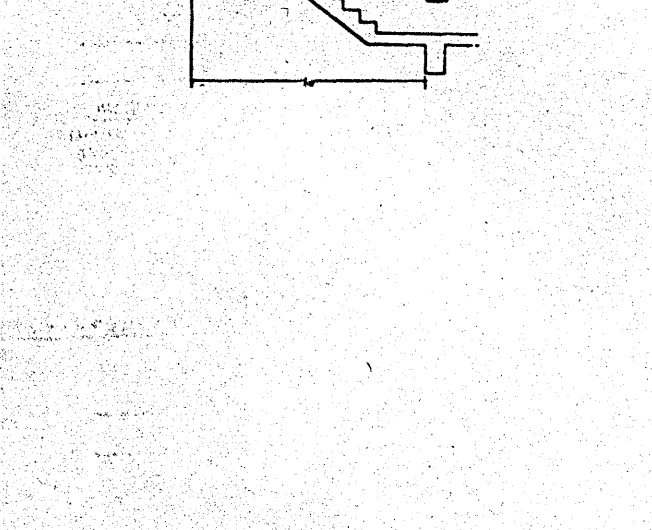
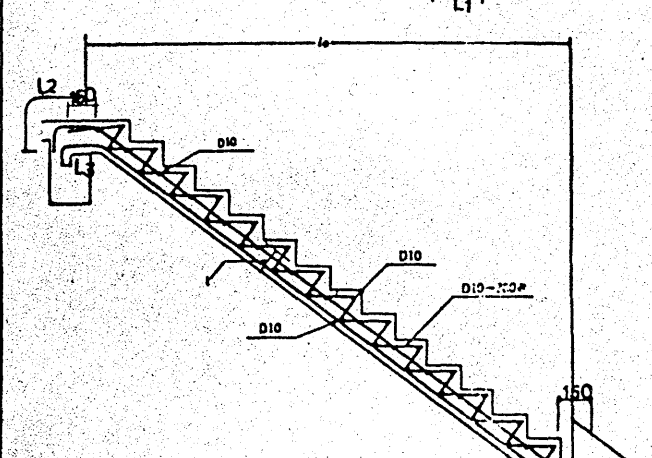
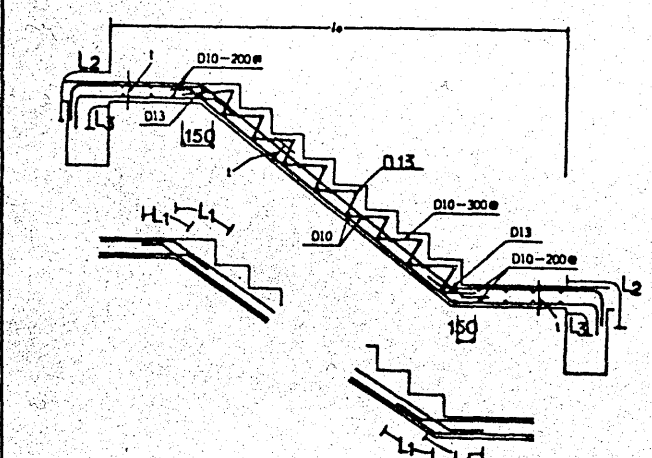
A形、A'形断面配筋



二辺固定梁断面

B形断面配筋

配筋	スラブ厚さ(mm)	全長
B1	150	D10-200mm
B2	150	D10-150mm
B3	150	D10-100mm
B4	180	D10-150mm
B5	180	D10-150mm
B6	180	D10-125mm
B7	180	D10-100mm



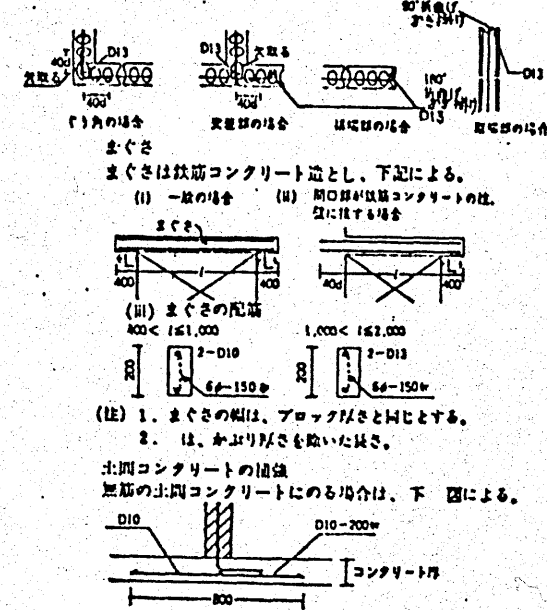
コンクリートブロック間仕切

一般事項

- 鉄筋の収め方(縦筋、横筋の位置を除く)及び配筋の量は、表による。
- 縦筋、横筋は、鉄筋用ブロックを使用し、縦筋は縦筋に鉄筋で固定する。
- 縦筋、横筋などの縦筋は、配筋を設けてはならない。ただし、重ね長さ5d(4は公共施設以上の両面アーチ橋梁を行う場合は、重ねを設けることができる)。
- 鉄筋に対するコンクリート又はモルタルの厚さは、20mm以上とする。
- 間仕切のコンクリートブロック積み高さは、厚100mmの場合18段、厚150mmにおいては18段を最大とし、その上又は下に同じ高さの鉄筋コンクリート壁を設ける。その配筋は、縦筋はD10-200mmとする。

縦筋	横筋
D10-400mm	D10-400mm

変形部、開口部の配筋



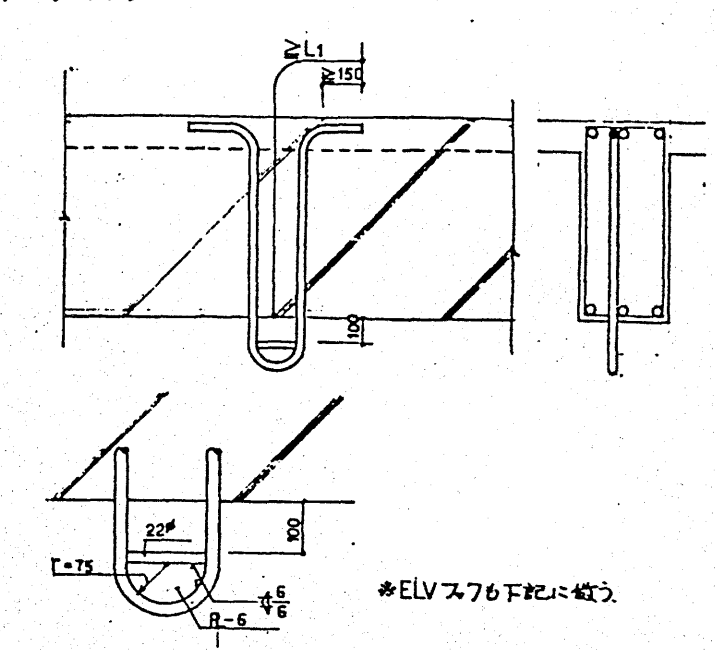
(注) 1. まぐさの量は、ブロックの大きさと同じとする。
2. は、おおよそを記した。

本間コンクリートの補強
鉄筋の土間コンクリートに接する場合は、下図による。



鉄筋

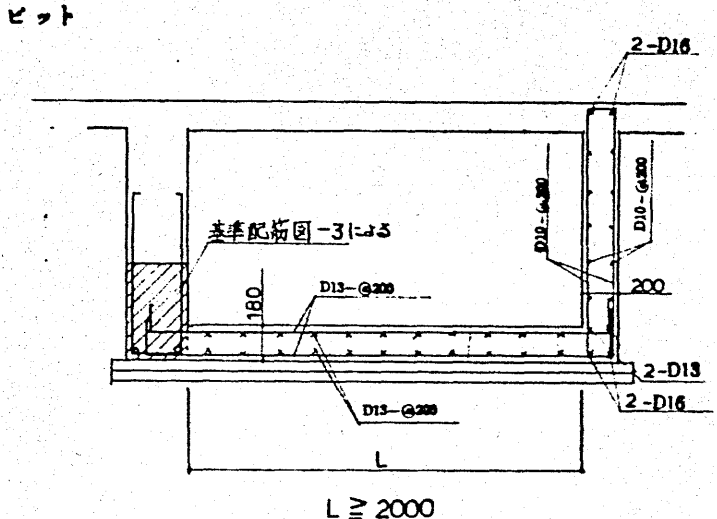
吊钩フック



所荷重	鉄筋径	備考
3 ton MF	22φ	
6 ton MF	25φ	

*ELVスラブ下に設置

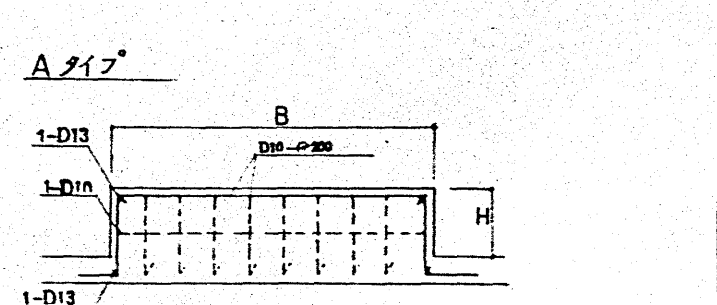
ビット



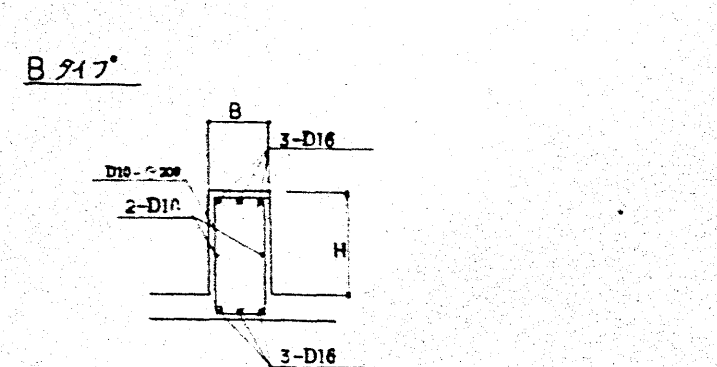
L ≥ 2000

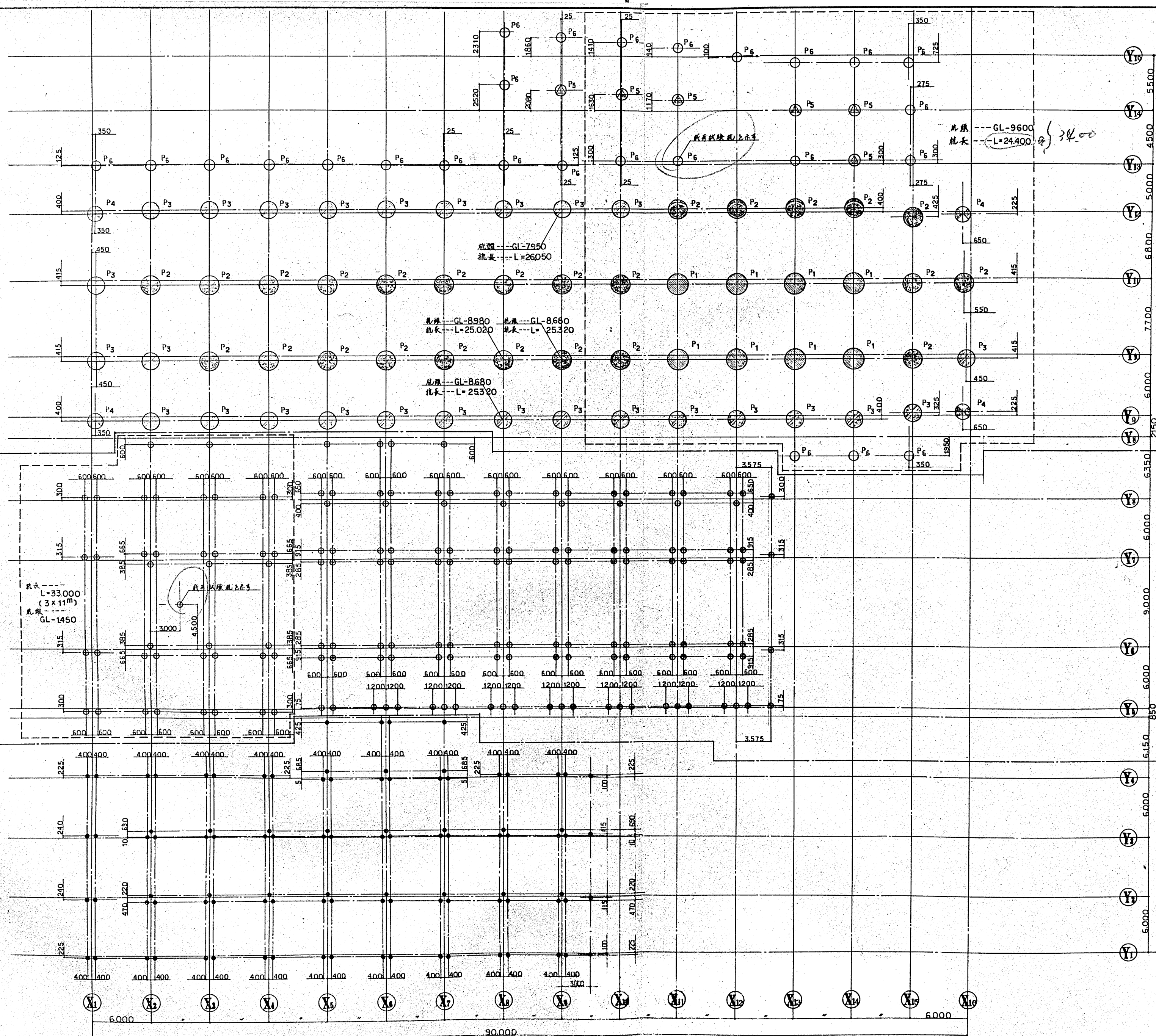
機械基礎

Aタイプ



Bタイプ





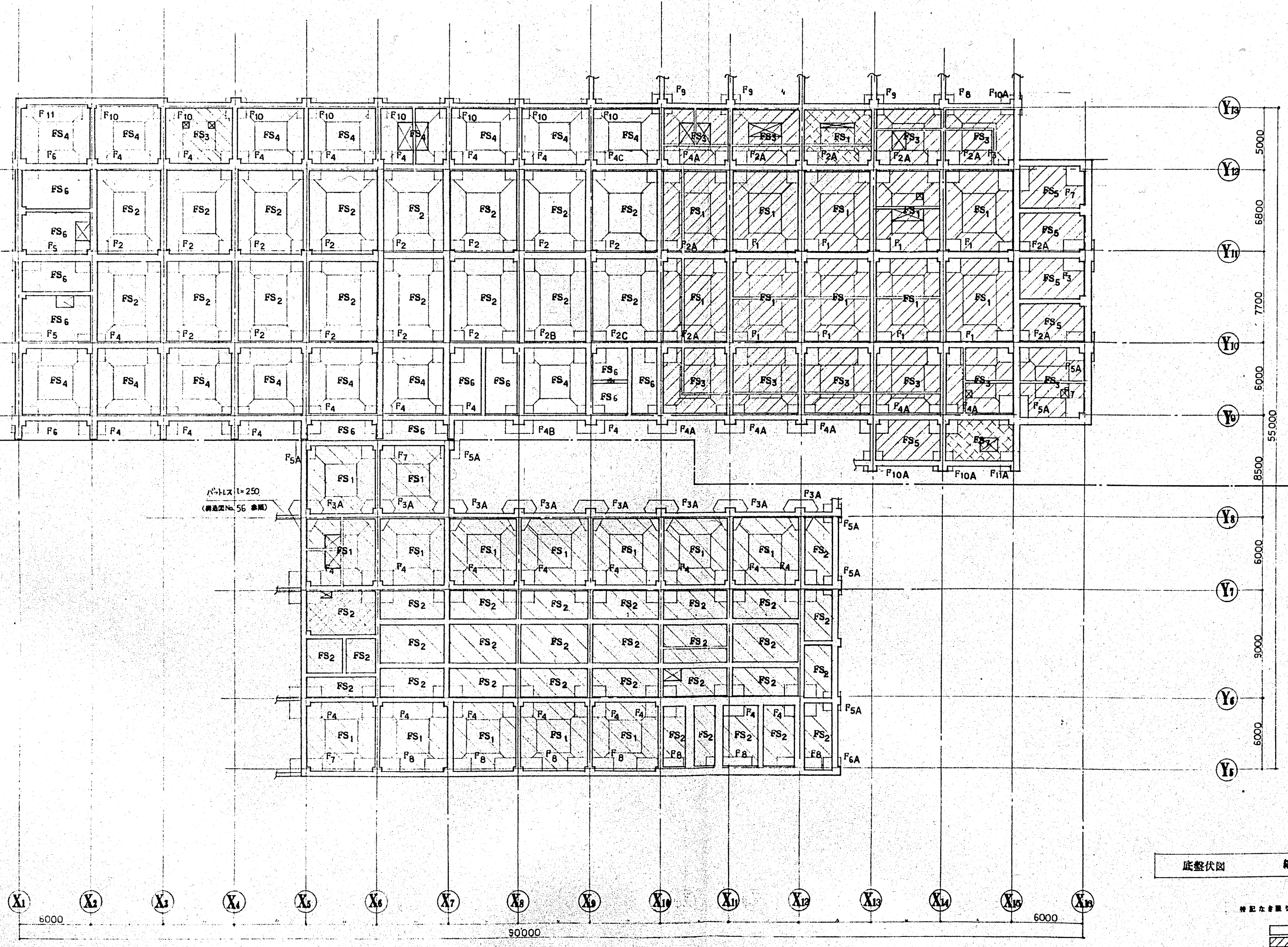
- P1 2200φ N=8
 ● P2 2000φ N=25
 ● P3 1800φ N=27
 ⊗ P4 1600φ N=4
 ⊙ P5 1200φ N=6
 ○ P6 1000φ N=26
 Total N=96
- 特記なき限り
 鋼筋コンクリート柱リバスラベレーション
 工法とする。
- 配筋場 GL-34000
 配筋 L=26.200
 配筋 GL-7800
 配筋鉄筋 17所 (570¹)
 配筋鉄筋 57所
 位置は鉄筋の確率による

- AC 柱 (A 種)
 600φ N=160
 特記なき限り
 ガレオカーセントミット工法とする。
- 配筋場 GL-34000
 配筋 L=27.000 (13+14m)
 配筋 GL-7330
 配筋鉄筋 17所 (390¹)
 配筋鉄筋 57所 (a) 37所, (b) 20所
 (a) L=28000 (14+14m)
 (b) L=34000 (11+11+12m)
 位置は鉄筋の確率による

- AC 柱 (A 種)
 400φ N=99
 特記なき限り
 ガレオカーセントミット工法とする。
- 配筋場 GL-34000
 配筋 L=33.000 (3×11m)
 配筋 GL-1150
 配筋鉄筋 37所
 L=34.000 (11+11+12m)
 位置は鉄筋の確率による

杭伏図 縮尺 1:200

第1期工事
 第2期工事
 第3期工事



底盤伏図 縮尺 1:200

特記なき限り

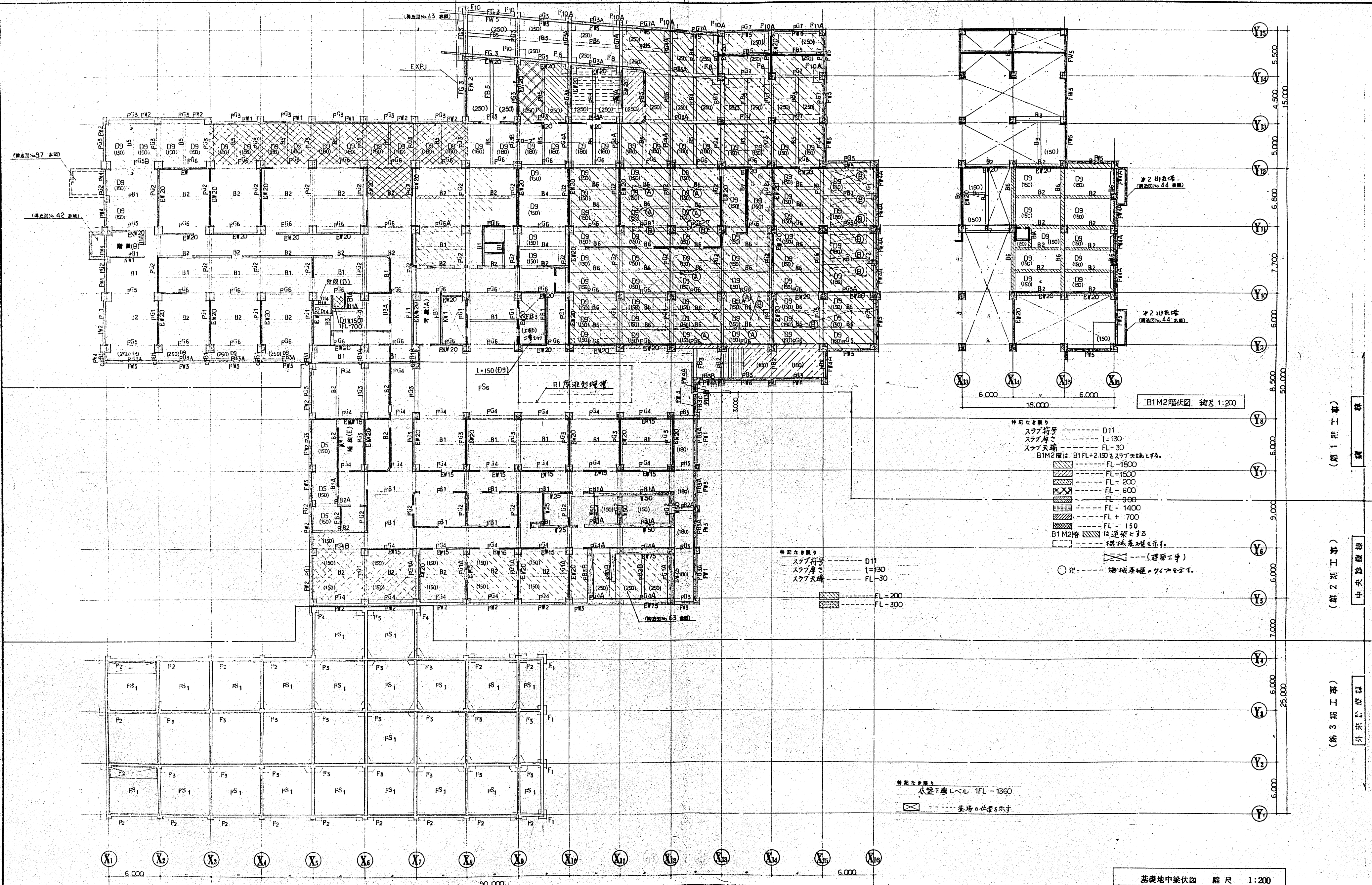
中庭下地	B1FL - 2.530
・	- 4.330
・	- 2.030
・	- 5.330
・	- 3.030
・	- 3.530

※ レット有開仕切バタ W18
 □ ---- 左向き位置を示す

第1期工事
第2期工事
中央診療棟

第1期工事
第2期工事
中央診療棟

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 保良 保良	図名 底盤伏図	縮尺 1:200	設計番号	図主 伊藤喜三郎	図主 伊藤喜三郎
	図名	縮尺 1:	作図 56年7月 日	図主 伊藤喜三郎	図主 伊藤喜三郎
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所		一級建築士事務所 登録第2113号		一級建築士事務所 登録第2113号	



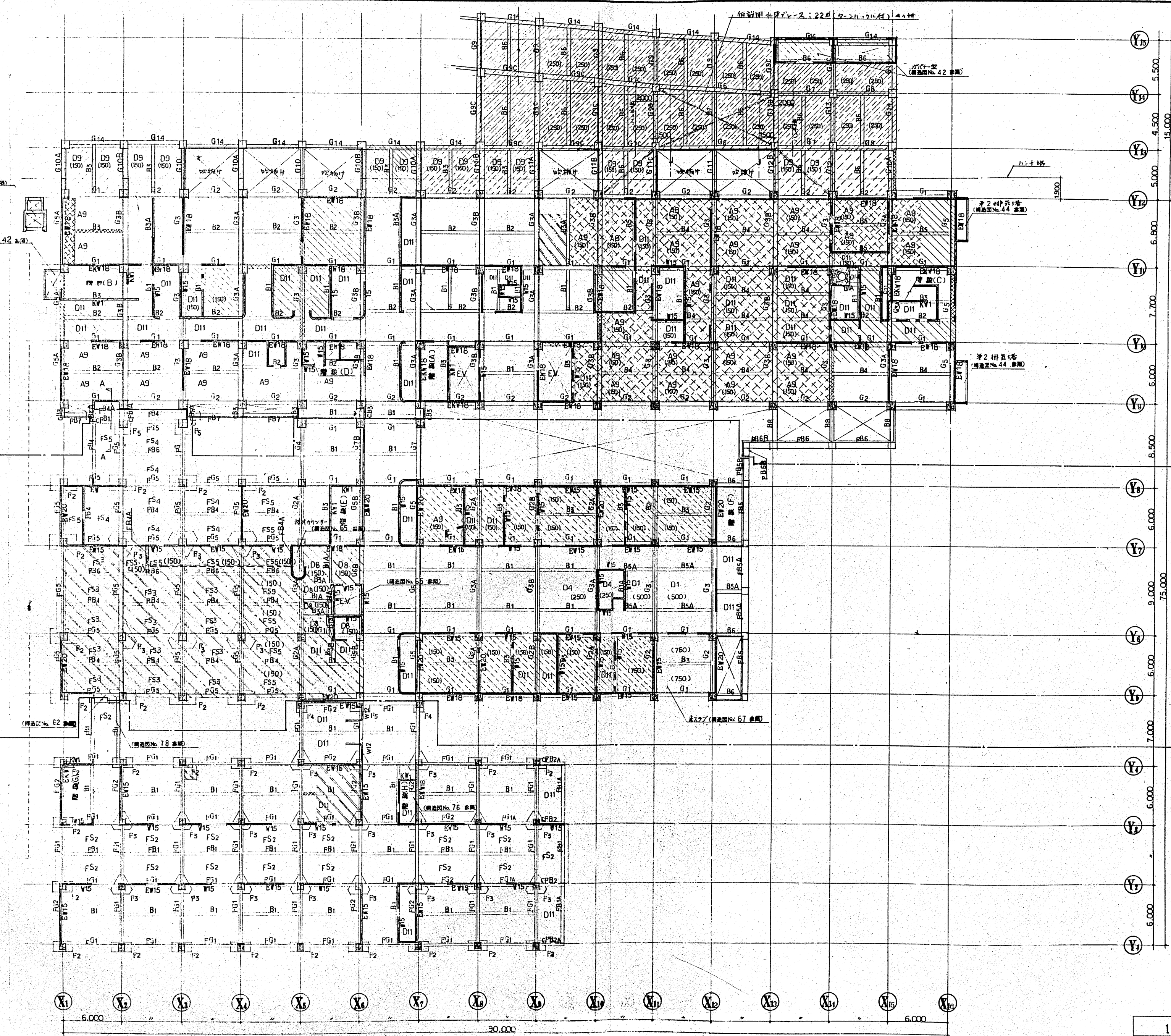
(第1期工事)

(第2期工事)

(第3期工事)

中央診療棟

外来診療棟



特記なき限り
スラブ符号 A11
スラブ厚さ t=130
スラブ天端 FL-30

----- FL-380
----- FL-300
----- FL-60
----- FL-150
----- FL-200
----- FL+50
----- FL-600

特記なき限り
スラブ符号 A11
スラブ厚さ t=130
スラブ天端 FL-30

----- FL-200
----- FL-60

特記なき限り
スラブ符号 A11
スラブ厚さ t=130
スラブ天端 FL-30

----- FL-60

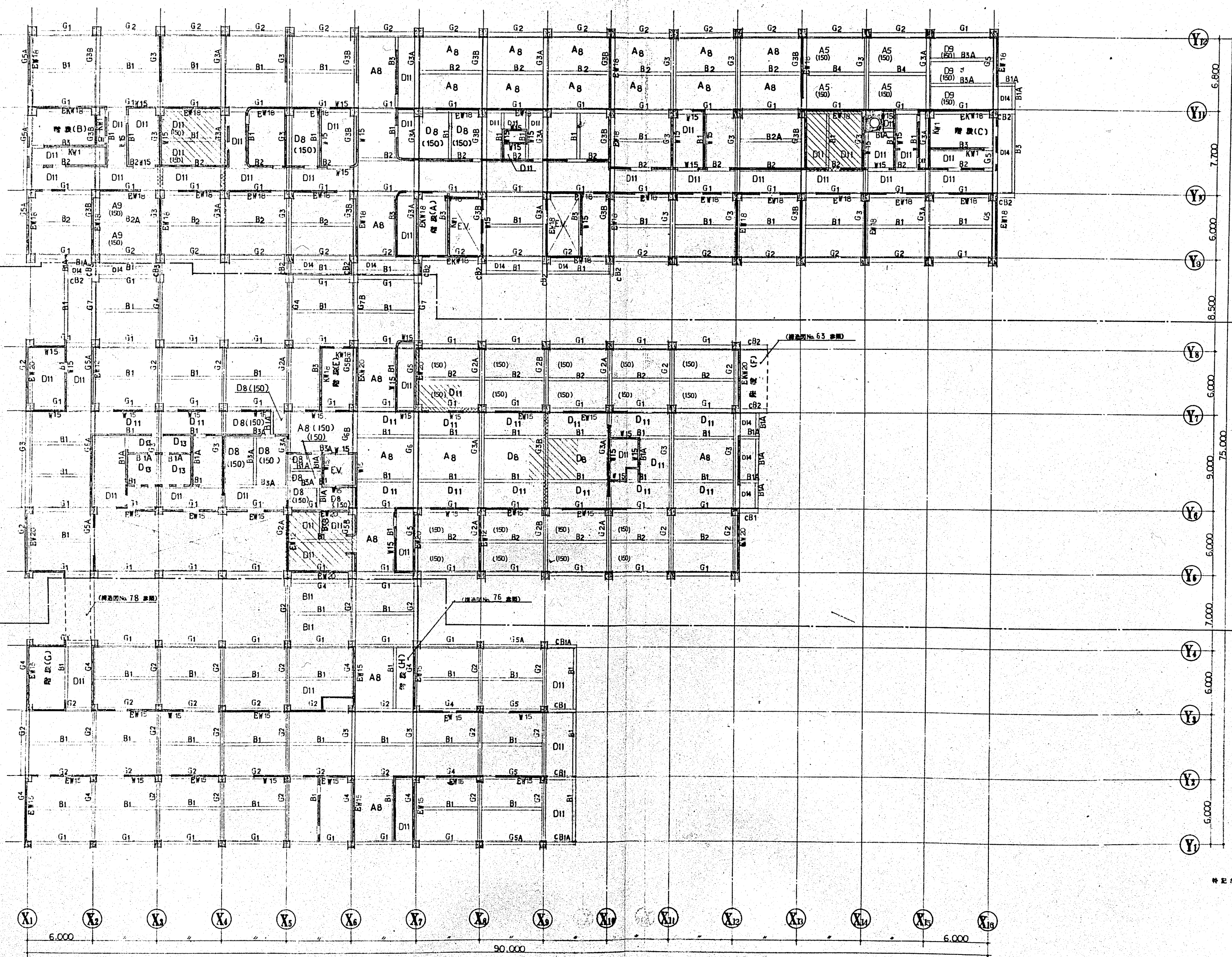
(第1期工事)
棟

(第2期工事)
中央診療棟

(第3期工事)
外来診療棟

1階梁伏図 縮尺 1:200 第1期工事

建設事務局		小田原市立病院建設		工事設計図	
局長 係長 係員	1:200	設計番号	1:200	図面番号	17
	尺 1:	作図56年7月 日	伊藤喜三郎建築研究所	二階梁伏図	
株式会社 伊藤喜三郎建築研究所		二階梁伏図		二階梁伏図	



特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150

特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150

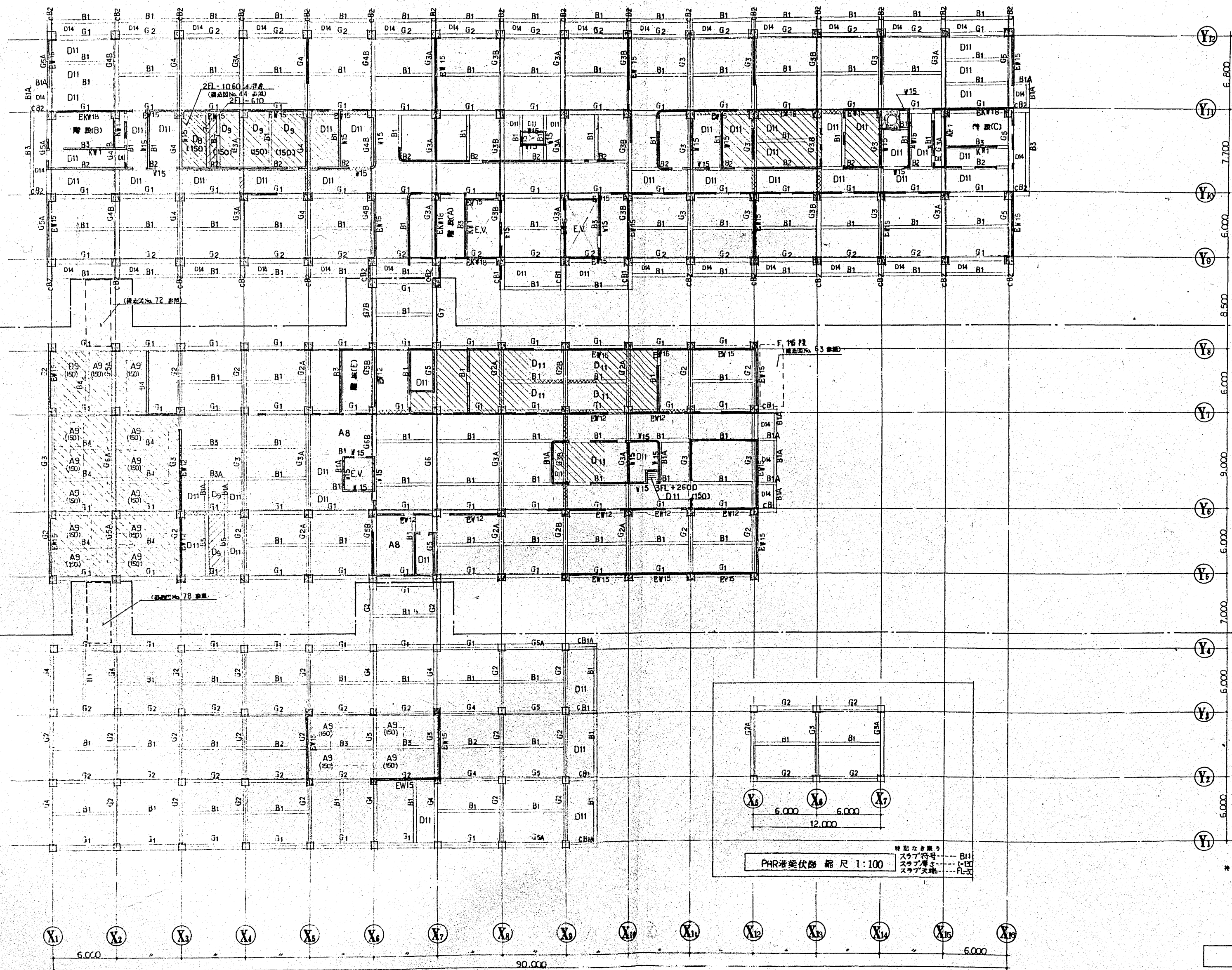
特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30

2階梁伏図 縮尺 1:200

(第1期工事) 校

(第2期工事) 中 学 校 校 舎

(第3期工事) 学 校 校 舎



特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150

特記なき限り
 スラブ符号 ----- A11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30
 ----- FL-150
 ----- FL-200
 ----- FL-100

特記なき限り
 スラブ符号 ----- B11
 スラブ厚さ ----- t=130
 スラブ天端 ----- FL-30

3階梁伏図 縮尺 1:200

(第1期工事)

(第2期工事)

(第3期工事)

中央診療棟

中央診療棟

中央診療棟

第1期工事
 構造

建設事務局
 局長 係長 係員
 (印) (印) (印)

小田原市立病院建設
 3階梁伏図
 縮尺 1:200
 設計番号
 作図 56年7月 日

工事設計図
 伊藤喜三郎建築研究所
 二級建築士事務所登録番号 第2215号
 二級建築士登録番号 第05778号
 構造
 19